
内子町環境報告書 2020

— キラリと光るエコロジータウン内子 —

1. 発行にあたって

2020 年、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の蔓延によって世界の日常は大きく様変わりし、経済はかつてないほどの損失を受けました。今なお終息の見通しは立たず、人類は不安な日々を過ごしています。

このコロナ禍において、2020 年の世界の二酸化炭素排出量は前年比 7 % 減と、第 2 次世界大戦以降で最も減少する見通しとなっています。しかしこれはコロナが終息すれば再び増加に転じることが予想され、今後、経済活動の再生と温暖化対策をいかに両立させていくかが重要です。

地球存続・人類存亡の警鐘が鳴らされる中、その対策に残された時間には限りがあります。日本では 2020 年 10 月、菅義偉首相の所信表明で 2050 年の脱炭素社会を目指すことが示されました。内子町においても、町民一人一人が危機感をもち、自らの行動によって着実に「エコロジータウン内子」への歩みを進めていけるよう、取り組んでまいります。

令和 3 年 3 月

内子町長 小野植 正久

= 目次 =

1 発行にあたって	3 内子町環境基本計画
2 環境トピック	(1) 個別政策取り組み状況 6
[自然分野]	(2) 独自目標達成状況 14
(1) 自然観察会 1	4 うちエコ取り組み状況
(2) 小田深山の保全・活用 1	(1) うちエコとは 38
(3) 小田川シクロクロス in うちこ 2	(2) うちエコ監査 39
[暮らし分野]	(3) エコ見回り 44
(4) マイバッグキャンペーン 2	(4) 数値目標評価結果 45
(5) アースデイ in 内子 3	5 内子町エコオフィスプラン 47
(6) 緑のカーテンコンテスト 4	6 環境データ
[環境教育分野]	(1) 河川・土壌 51
(7) 環境学習会 4	(2) ごみ 54
(8) 内子幼稚園エコ活動 5	(3) 再生可能エネルギー 57

2. 環境トピック

〔自然分野〕

（１）自然観察会

内子町は ESD 推進事業（Education for Sustainable Development：持続可能な開発のための教育）の一環として、NPO 法人内子未来づくりネットワークと協働し、自然観察会を実施しています。

令和２年度は、子どもたちを対象に５回の観察会を行いました。

水生生物やトンボなど、生き物の観察を通して身近な自然に触れ、郷土の環境に対する興味・関心を育む機会として、今後も継続的に事業を実施していきたいと考えています。

―実施内容―

- ８月 ６日 小田深山の生き物観察
（児童クラブ・放課後子ども教室）
- ９月 28 日 知清河原の水生生物観察
（内子小学校４年生）
- ９月 29 日 中山川の水生生物観察
（立川小学校３・４年生）
- 10 月 15 日 亀ヶ淵池周辺 水辺の生き物観察
（五十崎小学校４年生）
- 10 月 15 日 亀ヶ淵池周辺 水辺の生き物観察
（天神小学校４年生）



小田深山の生き物観察会



中山川の水生生物観察



亀ヶ淵池で観察されたベニトンボ

（２）小田深山の保全・活用

小田深山の多様な自然環境の質の維持と工場を図ることを目的に、内子町役場小田支所が主体となり、年間を通してさまざまな活動を展開しています。

令和２年度は、新型コロナウイルス感染症の影



広葉樹の種の採取

響により事業の実施が困難な状況ではありましたが、植林・保護活動 3 回、環境学習会等 3 回、保全活動 23 回と、少人数での活動を可能な限り実践しました。

保全活動は地道な取り組みであり、活動内容を工夫しながら継続できる体制を整えていくとともに、エコツアーやイベントなどを通して都市住民が積極的に保全活動に関わることのできる機会をつくっていきたいと考えています。

また、昨今のアウトドアブームによって自然の中に捨てられるごみの量が増加しており、対策が必要と考えています。



小田深山溪谷 ごみ拾い



小田深山散策（愛媛大学）

（３）小田川シクロクロス in うちこ 2020

小田川リバーサイド・ふれあい事業の一環として、豊秋河原の特設コースで「第 8 回小田川シクロクロス in うちこ 2020」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症対策のため、参加者を県内在住選手に限定。延べ 225 人が熱戦を繰り上げました。



小田川シクロクロス in うちこ 2020

〔暮らし分野〕

（４）マイバッグキャンペーン

7 月からのレジ袋有料化を控え、ECO-ZUKI 内子と環境政策室との共催により、町内の道の駅でマイバッグキャンペーンを実施しました。

アンケートに協力いただいた方を対象に、町のオリジナルマイバッグを割引価格で販売。既にマイバッグを所持している人も多く、購入者の 3 割



マイバッグキャンペーン（からり）

ほどは観光客などの町外在住者でした。

なおマイバッグの社会的な定着を踏まえ、町オリジナルマイバッグの作成は、ひとまず本年度をもって終了します。

—実施内容—

実施日：6月28日（日）

実施場所：内子フレッシュパークからり
小田の郷せせらぎ

販売実績：2WAY タイプ 24 枚
レジ袋タイプ 22 枚



マイバッグキャンペーン（せせらぎ）

（5）アースデイ in 内子

内子町5R推進委員会の有志等による ECO-ZUKI 内子（エコ好き内子）と環境政策室との共催により、3回目となるアースデイのイベントを開催しました。

例年4月22日アースデイ（地球の日）に合わせて実施していましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により11月に延期し、対象を町民に限定して開催。広く参加呼びかけを行うことができなかったものの、男子中学生のグループや親子連れなどの自主的な参加があり、活動が認知されつつある様子をうかがうことができました。

—実施内容—

実施日：11月3日（火・祝）

活動内容：豊秋河原（天神側）のごみ拾いと、
拾ったごみの分別

参加者：26人（うち高校生以下12人）

収集結果：ごみ8分類 24 kg+粗大ごみ



アースデイ in 内子
豊秋河原のごみ拾い活動



拾ったごみを、みんなで分別

（６）緑のカーテンコンテスト

家庭や事業所における夏季の省エネおよび地球温暖化対策の推進を目的に、第 11 回となる緑のカーテンコンテストを実施しました。

本年も環境 NPO サン・ラブのご協力により、ゴーヤ・ユウガオ・フウセンカズラの苗を無料で配布しました。

最優秀賞：五十崎児童館

優秀賞：下野安彦さん

内子高等学校小田分校家庭クラブ



最優秀賞に輝いた五十崎児童館の
緑のカーテン

〔環境教育分野〕

（７）環境学習会

①環境子ども会議

令和 2 年度の環境子ども会議は、新型コロナウイルス感染症のため中止となりました。その代替事業として、オンラインによる環境学習会が開催されました。

森と水（川）の関係について実験を交えながら学ぶ内容で、動画の中継や画面を通じた質疑が行われました。

コロナ禍において ICT 教育の導入が加速的に進められていく中、町内全ての小学校をつないだオンライン授業は初の試みであり、今後の参考事例となる意義深い活動となりました。

ー実施内容ー

実施日：2月10日（水）

内 容：「内子の緑のダムって？」

講 師：武田林業 武田惇奨さん
愛媛森林管理局

参 加：町内小学校の 3～5 年生 125 人



実験の様子をスマホで中継



web 会議システムを使って配信

②その他の環境学習

各小学校では、総合学習の時間やコミュニティスクールの取り組みのひとつとして、さまざまな体験活動を取り入れた環境学習の機会が設けられています。清流小田川をテーマとした水にまつわる学習や、伝統的な建造物や城跡などの文化財に触れる学習、農園の見学や農家との交流など、ふるさとへの理解を深め、愛着を育む内容が中心です。

また例年、自治会や各種住民グループなどによる環境学習会も開催されています。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により多くの予定が中止となりましたが、子育て支援センターや食生活改善推進協議会の主催で、計4回の学習会が開かれました。

これらの学習の機会が増え、さらに活発になるように、専門家や地域とも連携して活動をサポートしていきます。



町内の川の水の水質検査
(内子小学校)



えひめ AI-1 を使った竹堆肥づくり
(立川小学校)

(8) 幼稚園・保育園のエコ活動

町内の幼稚園・保育園では、それぞれ環境基本計画の「自然」「暮らし」「環境教育」の3つの分野にかかる独自目標を掲げ、日々の保育や活動において環境の視点を意識し、工夫した取り組みが行われています。

内子幼稚園では、昨年度に続いて、身近な地域で見つけたイモリをはじめとする生き物の飼育に挑戦。園の一室を「生き物研究所」とし、園児たちが世話をしながら、その様子を観察して、参観日に研究者として保護者を案内したり、お楽しみ会で発表したりしました。

幼児期から環境に対する興味・関心を深めるとともに、子どもたちを通して家庭にも波及していくことが期待されます。



3. 内子町環境基本計画

令和2年度より「第2次内子町環境基本計画」の後期計画がスタートしました。個別政策の取り組み状況、および3つのプロジェクトにかかる独自目標の達成状況を掲載します。

なお、計画の詳細は内子町のホームページで公開しています。

(1) 個別政策取り組み状況

①自然プロジェクト

基本政策1：生物多様性の保全・創造

区分			指数・数値目標	取組結果	達成状況	担当部署
柱	基本政策	個別政策(★重点)				
自然	1 生物多様性の保全・創造	① ★里地里山の保全	農村景観保全活動の支援 集落協定への交付金:72,814千円	交付額は66,750千円 第5期対策1年目であったが、協定参加の減少に伴いとなった。	△	農林振興課
			放置人工林ゼロを目指した取り組み(森林整備事業) 間伐面積:300ha、条件不利地等の森林整備:100ha	間伐面積389.80ha、条件不利地の森林整備(切り捨て間伐)95.95haで、ほぼ目標を達成することができた。	○	農林振興課
			農地利用の最適化の推進 農業者年金の加入促進:23件、 家族経営協定の普及推進:119件	コロナ禍による戸別訪問の自粛により農業者年金の加入促進は目標に届かなかったが、家族経営協定は120件の締結を達成した。	△	農業委員会
			多面的機能支払交付金による農村景観保全活動の支援 活動組織への交付金:17,877千円	協定締結16組織、協定農用地494ha、活動組織への交付金17,663千円。農家の高齢化に伴い、協定更新時に対象農用地が減少していくことが予想される。	△	農村支援センター
			林業施設の整備 林業整備事業:5路線、林業専用道整備事業:3路線、県営治山事業:5地区	林道4路線、林業専用3路線を実施し、生産コストの軽減と輸送の効率化を進めた。県営治山事業は5地区を実施。ほぼ計画どおりの進捗となっている。	○	建設デザイン課
			農業生産基盤の整備 県単土地改良:3地区、県営地すべり対策:2地区	県単土地改良事業3地区、地滑り対策2地区を実施し、計画どおりの進捗となっている。	○	建設デザイン課
		② 生き物保全・調査と創造と生態	生き物調査2種、育成学習会:1回、保全プラン部分作成	生き物調査2種(タンポポ・ホタル)を実施。育成学習会はコロナのため開催延期となったが、講師を招き事前調査を行った。	△	環境政策室
			自然観察会の継続と自治会による環境への取組の支援 自然観察会:3回以上、自治会活動の支援と啓発	環境NPOや環境政策室等と連携し小田川の水生生物観察会を実施したが、その他の自然学習・体験機会は実施できなかった。	△	五十崎自治センター
		③ 全自・然小活環田用境深の山保の	内子町山並保全・活用計画 植林・保護活動:2回、環境学習会等:3回、保全活動等:25回	植林・保護活動3回、環境学習会等6回、保全活動23回。コロナ禍で活動自粛が続いているが、おおむね目標を達成することができた。	○	小田支所

基本政策2：自然資源や景観を活かした地域づくり

	た2 地域 自然 資源 や 景観 を 活 か し	ラを① ★ ン活 ド用 地 域 づ く た 資 源 リ ブ 源	トレーサビリティ推進、化学肥料、 化学合成農薬低減の取り組みア ピール 土壌診断：600件	土壌診断608件	○	農林振興課 ・ 農村支援 センター
		材し② のた環 受観境 け光を 入や活 れ人か	移住者受入れによる空き家活用 の推進 うちこ屋バンク成約：3件、移住相 談時におけるエコロジータウン内子 の周知：100%	うちこ屋バンクへの登録5件、成約2件。移 住相談（16件）時にエコロジータウン内子 の取組を紹介した。	△	総務課
自然	2 自然 資源 や 景観 を 活 か し た 地 域 づ く り	② 環 境 を 活 か し た 観 光 や 人 材 の 受 け 入 れ	内子ねき歩き（まち歩き）事業推 進 参加者数：100人	新型コロナのため、ほぼ需要がなかった。 集客の柱となる町並を歩くコースは、滞在 時間の減少に伴って町並ガイドコースに需 要がシフトしており、参加者増加のため には滞在時間の延長を図る必要がある。	×	町並・地域 振興課
			内子町の自然や食、伝統文化を 生かした観光振興 観光客数：112万人、HP訪問者 数：17万人、環境教育を取り入れ た観光コースの開発：R6年度まで に1コース以上	内子町の入込観光客数は年間平均100 ～110万人であるが、令和2年度はコロナ の影響により88万人となった。	△	町並・地域 振興課
			グリーンツーリズムの振興 GT協会関連の宿泊：7,000人、体 験：600人	コロナの影響により、宿泊者数は3,000人 となった。	△	町並・地域 振興課
			五十崎風博物館の有効利用 来館者数：2,000人、体験講座参 加者数：100人	コロナの影響により、来館者数は1,000人 となった。	△	町並・地域 振興課
			新深山壮整備と内子町山並保 全・活用計画 小田深山来場者数：1.5万人、活 動参加者数：2,000人	コロナ禍において自然を楽しむ人の流れは 今までに増えている。ツアー事業は縮 小・自粛となっているが、短時間ツアー等 を工夫して実施することで新たなファンを 獲得しており、全体人数は横ばいながら、 着実に深山の自然を広めることはできてい ると考える。	○	小田支所
		シ推③ ス進環 テす境 ムる活 検経動 討済を	未利用材を活用した経済循環（木 こり市場プロジェクト） 木質バイオマス等の活用：500t	木こり市場の集積出荷量576tで目標を達 成することができた。約170万円が地域商 店街での消費につながった。	○	農林振興課
		境④ 整 備 景 観 や 生 態 系 に 配 慮 し た 環	景観行政 景観フォーラムの開催：1回、意識 啓発や優良事例・協力企業紹介： 1回、板塀や生垣の普及：1件	コロナのため景観フォーラムは中止となっ た。また広報にて景観まちづくり賞を募集し たが、該当がなかった。板塀・生垣の普及 では、板塀6件、生垣2件の補助を行っ た。	△	総務課
			小田川リバーサイド・ふれあい事業 イベント開催：4回、はらっぱ基金 運営委員会：2回	コロナのため、イベント1回、運営委員会2 回の開催となった。	△	建設 デザイン課
			老朽危険空き家除去事業 ：20戸、事業費：16,000千円	要望20件のうち、補助要綱に合致した14 戸の除去を行った。	△	建設 デザイン課

			歴史的風致維持向上計画 (累積)歴史的建造物の調査棟 数:3棟、歴史的風致形成建造物 の活用:3棟、伝統文化等の体 験・WS:5回	歴史的建造物の調査2棟、歴史的風致形 成建造物の活用1棟、伝統文化等の体 験・ワークショップ3件を実施した。	△	町並・地域 振興課
自然	2 た自然 地域資 源づく り景観 を活か	た④ 環境観 や生態 系に配 慮し	歴史的環境の保全・活用 木蠟資料館上芳我邸来館者数: 3.2万人、町並関連ワークショップ 参加者数:300人	来館者数11,431人、ワークショップ参加 者105人と、コロナの影響を大きく受ける 結果となった。	×	町並・地域 振興課
			学校跡地の活用 旧田渡幼稚園舎の活用:実施計 画	歩き遍路やサイクリスト、帰省客等の利用 を見込んだ宿泊施設(素泊まり)の整備計 画により、実施設計が完了。国の補助金 を活用した改修に向けて準備を進めている。 る。	○	小田自治 センター

基本政策3：健全な水循環の維持と利用

自然	3 健全な 水循環 の維持 と利用	① 生活 排水 対策	えひめAI-1の普及 えひめAI-1の啓発:年1回以上	町ホームページにて、AI-1の紹介を行っ ている。イベント時の啓発は実施できな かったが、小学生によるエコ見回りでサン クラブを訪問した際に、活動について説明を 行った。	△	環境政策室
			下水道・合併処理浄化槽の普及 率向上 下水道水洗化率:86.9%、合併 処理浄化槽率:54.6%、下水道・ 合併処理浄化槽率:65.6%	下水道水洗化率86.6%、合併浄化槽普 及率 54.1%で、おおむね目標を達成する ことができた。	○	上下水道 対策班
		の② 環境 流保 と全 河川	河川美化一斉清掃:1回、肱川流 域河川清掃:1回、水質検査(公 共用水域・工場排水・最終処分 場):各1回	河川美化清掃は、コロナのため一斉実施 の呼びかけは行わず、各自治会・区ごとに 実施を判断した。その他の活動は計画ど おり実施することができた。	△	環境政策室
		た③ 地域 水を づく りし	学習会・フィールドワーク:年2回	環境学習会、夏季キャンプなどを計画して いたが、コロナのため中止となり、実施でき なかった。	×	内子自治 センター

②暮らしプロジェクト

基本政策1：ごみの減量

暮らし	1 ごみの減量	① ★廃棄物の減量	5R推進事業 レジ袋辞退率:30%、食品ロス削減協力店:5店舗、再利用の仕組みづくり:調査・検討、5R推進委員会:3回、ごみ排出量:697g/人・日	町内のスーパー・道の駅等におけるレジ袋辞退率は68%であった。 食品ロス削減協力店3店舗(2店舗増)、5R推進委員会1回、ごみ排出量751gで目標を達成することができなかった。 またこども用品のリユースについて検討を進めている。	△	環境政策室
			こども用品のリユース こども用品のリユース実施回数:13回	子育て支援センター子供用品のリユース活動は月1回行うことができ、利用者の間で広まってきている。「きらり☆かいとまつり」は中止となり、実施できなかった。	△	こども支援課
		正② 処理廃棄物の適	廃棄物の適正処理の推進 啓発活動:2回以上、パトロール:12回以上、ごみ出し支援の仕組みの構築:調査・検討	広報うちこ・ホームページでの啓発、パトロール(33回以上)を行った。ごみ出し支援は、地域包括支援センターの協力を得て高齢者実態把握調査において現況を調査した。	○	環境政策室

基本政策2：資源の地域内循環

暮らし	2 資源の地域内循環	① 地産地消の推進(農)	めざせ!自給率100%チャレンジプラン 取組項目の検討	取組項目や、その達成手法について内部で検討を進めているが、具体化には至っていない。	△	環境政策室
			学校、給食センター等での地産地消率(野菜・果物):60%	地産地消率43% コロナ禍における休校で給食停止となり、需要が落ち込んだため。	△	農林振興課・ 農村支援センター
		② 町の産材の活用(利)	町産材の利活用事業 町産材利用木造住宅の建築促進事業補助金申請:11件	補助金申請数7件で目標達成には至らなかった。コロナ禍で建築を遅らせる人がいたためと思われる。	△	農林振興課
		③ バイオオマスの利活用の拡大	木質ペレット:製造量8,200t・町内利用量7,200t、BDF:製造量1.6万L・利用料1.6万L	木質ペレット製造量5,980t、BDFの製造量・利用料14,162ℓで、いずれも目標には至らなかった。	△	環境政策室
			えひめAI-1の農業利用(竹堆肥)土壌改良の実証実験	果樹(梨・キウイ・ブドウ・栗・ブルーベリー)を対象に、土壌改良効果についての実証実験を行った。5年程度継続し、検証を図る。(1年目)	○	農林振興課・ 農村支援センター
			木質ペレットの利用拡大 木質ペレット消費量:1t	現在ペレットストーブを設置している五十崎児童館では、適正に使用できた。他施設への利用拡大は、設置スペースが確保できず、実施できなかった。	△	こども支援課

基本政策3：地球温暖化とエネルギーの地域内循環

暮らし	3 地球温暖化とエネルギーの地域内循環	ギ①★ の再生可能エネルギー	再生可能エネルギーの普及事業 太陽光発電設備：8件、蓄電池・燃料電池：5件、木質バイオマス利用設備：2件	補助事案件数は、太陽光発電設備8件、蓄電池5件、木質バイオマス利用設備0件であった。	△	環境政策室
			再生可能エネルギーの公共施設での導入・検討	導入に向け、補助事業等の調査を行った。	○	環境政策室
		普及② 省エネルギーの	「緑のカーテン」事業 コンテスト応募数：10件	応募件数3件で、目標を達成することができなかった。	×	環境政策室
			省エネの啓発活動 省エネ診断：年1回	省エネ月間の啓発やウォームピズ・クールピズの取組は実施したが、省エネ診断は実施できなかった。	×	環境政策室
		検討③ 適応策の	適応策の検討 HP等を通じた情報発信：1回	各種研修会等で最新の知見等について情報収集を行っているが、情報発信には至らなかった。	×	環境政策室

③環境教育プロジェクト

基本政策1：子どもから大人まで切れ目のない学習活動の推進

環境教育	1 子どもから大人まで切れ目のない学習活動の推進	① 子どもの環境学習（内子独自の学びの場づくり）	租税教室の実施 町内小・中学校で年間8回	コロナのため全6回の開催となった。	△	税務課
			自然体験学習の実践 小田深山宿泊体験参加児童数：125人	コロナのため事業の実施を見送った。代替事業として、各校単位で独自のふるさと教育を実践した。	△	学校教育課
			環境こども会議出席児童数：240人、環境副読本配布児童数：127人	従来型の環境子ども会議はコロナのため実施できなかったが、Web会議システムを利用して「内子の緑のダムって？」と題した環境学習会を開催した。小学生122人が参加した。また環境副読本は新4年生131人すべてに配布した。	△	学校教育課
			子どもの環境学習学習会：10回	五十崎こども園で年2回の環境学習を予定していたが、コロナのため実施できなかった。内子児童館・五十崎児童館ではそれぞれ、リサイクルや自然の大切さについての学習会を実施した。	△	こども支援課
			管内での環境学習会 自然観察会：2回	長田自治会において2回計画していたが、コロナのため1回しか実施できなかった。	△	内子東自治センター
			エコセミナー：年11回	新型コロナのためすべての事業が中止となり、実施できなかった。	×	大瀬自治センター
		② 大人の環境学習会（大人の環境学習会（実践に結び付く環境学習））	大人の環境学習の推進 学習会：年3回、情報発信：年12回	大人対象の学習会4回、「広報うちこ」暮らしのエコロジーにおける情報発信12回	○	環境政策室
			各自治会における学習会など：年1回	高齢者と子どもの交流事業は中止となったが、センターだよりにて不法投棄等にかかる注意喚起を行った。	△	内子自治センター
			管内サロンでの環境学習会：3回以上	コロナ禍でサロンの開催が中止されたため、実施できなかった。	×	内子東自治センター
			自治会環境学習 自治会と連携した学習会：6回	新型コロナのため各自治会での学習会は実施できなかった。	×	大瀬自治センター
			センター報や展示によるエコロジータウン内子の推進 センター報への環境記事掲載：年2回以上、パネル展示：年2回以上、巨木巡り：年1回以上	センターだよりへの掲載3回（6月・9月・2月）、ロビーパネル展示（常設）を行った。巨木巡りはコロナのため開催できなかった。	△	小田自治センター
		③ 様々な学習（ESDと連携）	持続可能な社会づくりに向けた学習活動の推進 学習会：年1回以上	NPO法人等と連携し、小学校4校にて、自然観察会やごみの分別、河川の水質などをテーマとした学習会を実施した。	○	環境政策室
			ドイツ等環境保全先進国の取り組み紹介の機会提供 報告会：2回	コロナの影響で青少年海外派遣事業が中止となったことにより、報告会の実績はなし。協会の情報誌「ゆうていあ」にて、ローテンブルク市における環境配慮の取組を紹介した。	○	自治・学習課

基本政策2：地域・自治会の環境活動の推進

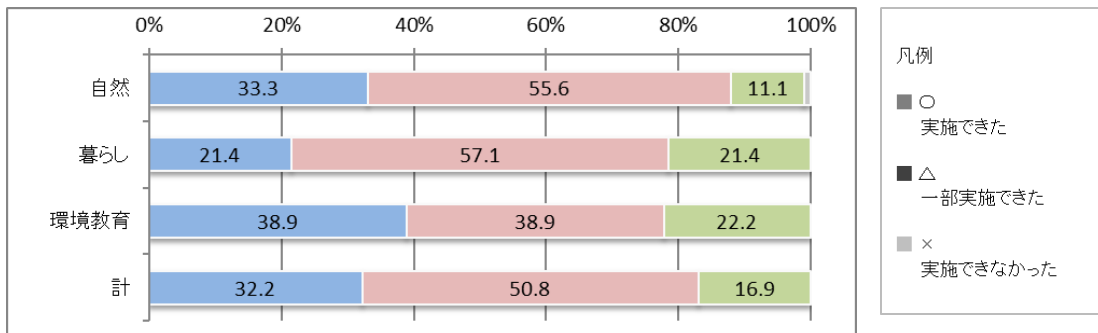
環境教育	2 地域・自治会の環境活動の推進	ル① 地★ 域環 づ境 くモ リデ	環境モデル地域づくり 環境学習会・支援：2団体以上、 モデル地区設置の検討、ごみ出し 支援：調査検討	学習会・支援は食生活改善推進委員会で3回、子育て支援センターで1回実施した。モデル地区設置・ごみ出し支援の調査・検討は随時進めている。	○	環境政策室
		② コ ミ ュ ニ ティ ビ ジ ネ ス の 展 開	コミュニティビジネスの推進 補助支援団体(累計)：3、事例紹介：年1回	補助支援団体3(城廻・花の苗販売、中川・よろず屋ながわ、寺村・便利屋猫の手)。また「広報うちこ」11月号特集にて、よろず屋ながわの活動を紹介した。	○	自治・学習課
			城廻自治会花の苗販売の支援 受注・配達：年20件	各自治会や公共施設からの注文により目標を達成することができた。	○	内子東自治センター
			コミュニティビジネス事業の普及拡大 啓発活動：年2回以上	4月・12月・3月の小田地区自治会連絡会において、コミュニティビジネスの積極的な活用について案内を行った。	○	小田自治センター

基本政策3：ネットワークづくり

	ク3 づ ネ ツ ク リ ト ワ ー	ワ① ー★ ク ネ ツ ク リ	環境に関する活動組織、個人等のネットワーク強化 情報交換の場づくり：設置、環境会議：年1回	情報交換の場づくり、環境会議ともに実施できなかった。	×	環境政策室
	59事業／106の指数・数値目標					

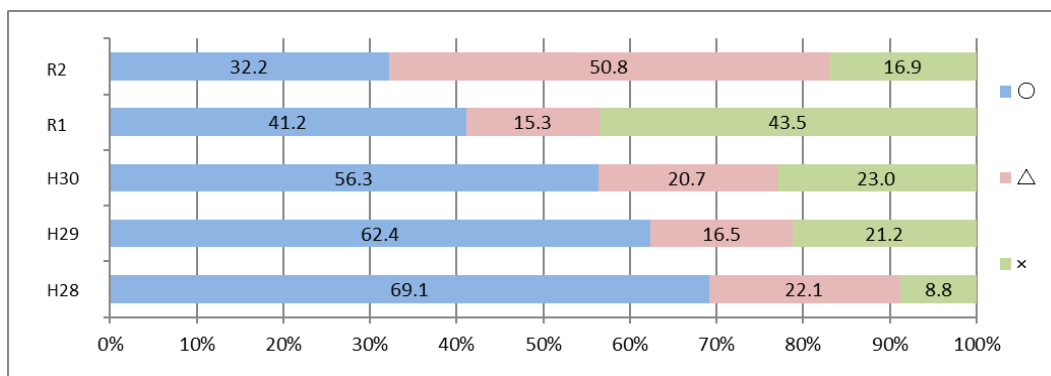
令和2年度内子町環境基本計画3つのプロジェクトにかかる指数・数値目標

	○		△		×		計	
		%		%		%		%
自然	9	33.3	15	55.6	3	11.1	27	100.0
暮らし	3	21.4	8	57.1	3	21.4	14	100.0
環境教育	7	38.9	7	38.9	4	22.2	18	100.0
計	19	32.2	30	50.8	10	16.9	59	



目標達成率の推移

		H28		H29		H30		R1		R2	
			%		%		%		%		%
自然	○	22	68.8	26	70.3	24	61.5	16	41.0	9	33.3
	△	9	28.1	4	10.8	4	10.3	7	17.9	15	55.6
	×	1	3.1	7	18.9	11	28.2	16	41.0	3	11.1
		32		37		39		39		27	
暮らし	○	9	60.0	12	46.2	10	38.5	8	33.3	3	21.4
	△	3	20.0	7	26.9	10	38.5	4	16.7	8	57.1
	×	3	20.0	7	26.9	6	23.1	12	50.0	3	21.4
		15		26		26		24		14	
環境教育	○	16	76.2	15	68.2	15	68.2	11	50.0	7	38.9
	△	3	14.3	3	13.6	4	18.2	2	9.1	7	38.9
	×	2	9.5	4	18.2	3	13.6	9	40.9	4	22.2
		21		22		22		22		18	
計	○	47	69.1	53	62.4	49	56.3	35	41.2	19	32.2
	△	15	22.1	14	16.5	18	20.7	13	15.3	30	50.8
	×	6	8.8	18	21.2	20	23.0	37	43.5	10	16.9
		68		85		87		85		59	



(2) 環境基本計画3つのプロジェクトに関する独自目標と達成度

NO	部署名		目 標	評 価	達成率
1	総務課	自然	移住希望者に対して、内子町の環境や景観に関する取り組みを紹介する。	移住相談の際に、環境や景観に関する取り組みを紹介した。	100
		暮らし	区長便の梱包には必ずコピー用紙包装紙などの使用済み用紙を利用する。	左記については目標どおり実施した。また以下2点に取り組んだ。 ○12月、総務課の壁面に物品(文房具、ファイルなど)ストックコーナーを設置した。これまでは班や係ごとに物品を管理していたが、ストックコーナーを設置することで物品管理を一括化し、無駄な購入を無くしていくことを目的としている。また物品の可視化により、グリーン購入を促進していければと考えている。 ○使わなくなった古いコピー用紙などの各用紙を、幼稚園や保育園での落書きや習字練習用に提供している。	100
		環境教育	すべての地区集会所の指定管理者に対して、環境に配慮した取り組みに関する啓発を行う。	目標どおり実施した。	100
2	会計課	自然	2階のトイレ掃除当番と湯沸かし室当番の際には、必ずえひめAI-1を使用する。	現在トイレ掃除は、洗剤と水洗いのみで行っている。なお職員の休職により、当課による湯沸かし室での実施は年度途中までとなった。	30
		暮らし	買い物の際は週1回以上マイバックを持参することとし、家族等にも啓発する。	レジ袋有料化によりマイバック等持参での買い物が基本となったが、実践について年間を通して適宜啓発した。	80
		環境教育	指定金融機関(愛媛たいき農協)の駐在職員(1人)にも理解いただき、年間を通して環境配慮の取り組みに協力願う。	職員異動の際等に環境配慮への協力を年間を通して適宜依頼している。	100
3	住民課	自然	窓口用封筒について、使用済み封筒にリサイクル封筒である旨を記載した紙を貼るなどして、再利用率80%以上を目指す。	小さいサイズの封筒は以前作成したものの残りを使用しているが、よく使用する大きいサイズの封筒はリサイクル封筒を使用しているため、再利用率を高く保つことができた。	90
		暮らし	課職員に対してマイバック持参を周知し、持参率80%以上を目指す。	どこのお店でも袋が有料となったこともあり、持参率が高くなったと思われる。今後も継続していきたい。	90
		環境教育	職員研修に年1回以上参加し、職員の全体的なレベルアップを図る。	研修会前に回覧等で周知し、職員一人一人に参加してもらうように働きかけ、環境教育に取り組んだ。	100

4	うちこ 福祉館	自然	玄関横設置のえひめAI-1利用促進のため、週1回程度、トイレ掃除の際などに積極的に利用する。	週1回程度トイレ掃除の際など積極的に利用した。	100
		暮らし	機能回復訓練室南側の窓枠一面において、緑のカーテンを実施する。	南側の窓枠一面、ゴーヤを使って緑のカーテンを実施した。収穫した種は来年度に向けてNPO法人環境サンラブへ全て提供した。	100
		暮らし	わいわい喫茶で発生したコーヒーのガラは、すべて肥料として使用する。(最大10回)	コロナ禍で開催回数が減少したが、開催時には全て肥料として利用した。(8,9,10,11,12,1,3月)計7回	100
		暮らし	健康講座、わいわい喫茶等の調理時に出た廃油は、すべてサン・ラブに回収を依頼し、リサイクルに努める。	コロナ禍で中止もあったが、開催時には、廃油はすべてNPOサンラブに回収を依頼、リサイクルに努めた。	100
		環境教育	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し、記入率100%を目指すとともに、環境配慮の実践を指導・徹底する。	貸館利用者に環境配慮チェックシート記入を促し100%記入率を達成した。環境配慮の実践を指導・徹底した。	100
		環境教育	城廻自治会のコミュニティビジネスに協力し、年2回、館周辺のプランターに植栽を実施する。	年2回実施した(マリーゴールド／葉ぼたん)	100
5	参川 福祉館	自然	調理室やトイレ清掃の際には月2回、えひめAI-1を使用する。また館内外2カ所の掲示板にパンフレットを掲示するとともに、えひめAI-1を玄関に常備し、来館者や周辺地域住民にも利用を呼び掛ける。	調理室やトイレ清掃の際には月2回以上「えひめAI-1」を使用した。館内外の2カ所にパンフレットを掲示するとともに「えひめAI-1」を玄関に常備し、来館者および周辺地域住民に利用を呼び掛けた。	100
		暮らし	調理室の使用で出た生ごみは、すべてプランターで堆肥化しごみの減量化に努める。	調理実習等で出た生ごみは、全てプランターで堆肥化しごみの減量化に努めた。	100
		暮らし	室温を下げて電気使用量の低減を図るため、事務室の窓全体に緑のカーテンを2m設置する。また来館者や周辺地域住民にも取り組みを呼び掛ける。	電気使用量の低減を図るため、事務室窓全部を対象に「緑のカーテン」を2m設置した。来館者および周辺地域住民にも呼び掛けた。	100
		環境教育	館掲示板に環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者や周辺住民に啓発する。	館掲示板(大会議室窓ガラス)に、環境に関する資料を年2回以上掲示し、利用者および周辺住民に対し啓発を行った。	100
		環境教育	館利用団体への説明会、健康教室、サロン、子ども会活動の際に各1回、町や参川福祉館の環境に関する取り組みなどについて説明する。	館利用団体の人権学習会、健康教室、サロン、子ども会活動等で1回以上内子町および参川福祉館の環境に関する取り組みについて説明した。	100

6	税務課	自然	所属する自治会(地域づくり担当職員の担当自治会も含む)の地域づくり計画書に掲げる自然環境保全活動や自然災害防災活動への参加率を100%にする。	令和2年度はコロナウイルス感染症により活動ができないことが多かった。	-
		暮らし	裏面利用が可能な用紙は、必ず裏面を印刷・メモ用紙等に利用し、用紙の節約に努める。	再利用の用紙については、印刷・メモ紙等に利用し用紙の節約に努めた。	100
		環境教育	町内小中学校で開催する租税教室のすべてにおいて、「地球温暖化対策のための税(通称:環境税)」が設けられ、環境保護に役立てられている事実を児童・生徒に伝える。(年8回を計画)	令和2年度はコロナウイルス感染症により8回の予定のうち2回中止となり6回の開催で、環境と税について学習することができた。	75
7	保健福祉課	自然	訪問調査で使用する車両について、軽自動車・ハイブリッド車の使用率を80%以上にする。	保健福祉課管理車両の総走行距離のうち、軽自動車の占める割合は97.2%だった。	100
		暮らし	機密文書を破棄するとき、シュレッダー処理率を90%以上にする。	焼却処分していた認定審査会資料をシュレッダー処理としたため、目標であるシュレッダー処理率90%以上を達成することができた。	100
		環境教育	窓付き封筒を使用するとき、環境ロゴ等を記載した封筒の使用率を50%以上にする。	既存のロゴなし封筒の在庫が多くあったため、使用率は20%程度と目標達成できなかった。	40
8	保健センター	自然	湯沸かし室(週1回)、調理室(使用時)の清掃の際にえひめAI-1を利用する。	週に1回利用することはできなかったが、月に2〜3回利用した。	80
		暮らし	コピー機のトレイに裏面使用可能な用紙を常時セットし、使用する。	コピー機に裏面使用可能な用紙を常時セットし、使用することができた。	100
		環境教育	健診の通知をする封筒や健康教育の資料に独自のエコイラストを使用する。	健診の通知をする封筒や健康教育の資料に独自のエコイラストを使用した。	100
		環境教育	2カ月児育児相談にて内子町環境基本計画に関する資料を必ず配布する。	2カ月児育児相談にて内子町環境基本計画に関する資料を配布し、説明することができた。	100

9	こども支援課	自然	車を利用する場合、軽自動車・ハイブリッド車の利用を全体の80%以上にする。	年度途中から課の公用車(普通ガソリン車)ができたため、その利用量が多く、目標達成には至らなかった。その分、発進・停止回数を抑えるよう先を見越した予知運転をすることを心がけ、環境にやさしい運転を心がけた。	20
		暮らし	ミスコピーの削減に努める。	印刷前に内容の確認を徹底したり、ミスコピーをしても機密事項の記載がない場合は、次回印刷時に裏紙利用するなど廃棄量を抑えることができた。	90
		環境教育	掲示期間の過ぎたポスターを保育園・児童館等で活用してもらう。	保育園、児童館で子どもたちのために有効活用できた。	80
10	建設デザイン課	自然	生態系に配慮した河川環境の整備を民間団体と協働して年1回以上行うとともに、近自然型工法を推進することで、環境に配慮した工事を行う。	自治会や各種団体と連携して、ミニ小田川と郷の谷川にて除草等の清掃活動を行った(年2回)。また「はらっぱ基金」を活用し、観察学習として小田川生物調査を行うなど、環境に関して理解を深める活動を行った。	100
		暮らし	内子町産の木材使用を促進するため、2施設の公共建築物の木造化を推進する。	建築物の更新に関して、内子町産材を使用した木造建家の建築を行った。(平岡4部消防詰所・なかよし広場便所棟)	100
		環境教育	新規の上下水道に係わる手続きの際には、すべてのお客様に対してえひめAI-1の効果を紹介し、利用促進および消費量の増加を図る。合併浄化槽を新設する場合も同様とする。	上下水道及び合併浄化槽の手続きの際に、えひめAI-1の説明を実施した。(実施件数39件)	100
11	環境政策室	自然	他部署の自然プロジェクトを1つ以上サポートする。	コロナのため中止となった事業が多かったが、自治センターの自然観察会や歴史的建造物の活用事業等において、サポートを行った。	100
		自然	住民団体等と協働し、生き物観察会や保全活動を2回以上実施する。	うちみづネットと協力し、生き物観察会などを5回以上実施した。	100
		暮らし	他部署の暮らしプロジェクトを1つ以上サポートする。	保育園や小学校のエコ見回り隊の実施について、サポートを行った。	100
		暮らし	ごみ処理に関する資料を作成し、年度末までに1回町民に配布する。(ゴミ収集日程表に添付)	12月の回覧でごみ収集日程表と一緒に全世帯へ配布した。	100

11	環境政策室	環境教育	他部署の環境教育プロジェクトを1つ以上サポートする。	小学校等においてエコ学習会の講師を務めたり、資料を提供したり、講師の紹介を行ったりした。	100
		環境教育	自治会や環境団体が参加する「内子発環境会議」を年1回開催する。	コロナのため、うちこ発環境会議は中止となった。	0
12	内子総合窓口センター	自然	サン・ラブ提供のえひめAI-1を年間50本以上住民に配り、環境保全に努める。	定期的に補充していただき、多くの住民に使用していただいている。	100
		暮らし	サン・ラブ提供のゴーヤ苗などを住民に配布する。	全部配ることができた。	100
		暮らし	緑のカーテンを設置する。	実施したが、成長具合は改善したい点も残った。	90
		暮らし	毎朝水道メーターをチェックし、漏水の有無など使用量に注意する。	毎朝チェックした。	100
		環境教育	転入者に対して、ゴミの出し方の冊子を配布して説明し、環境への配慮について案内する。	すべての転入者に口頭で説明している。	100
13	町並・地域振興課	自然	町並・地域振興課に関する自然資源(小田川、小田深山、泉谷地区棚田など)を有効活用した行事などを開催することで、町内外の方に内子町の自然について知っていただくよう努める。	新型コロナの感染拡大により行事は開催できなかったが、ホームページ、電話問い合わせへの対応などにより内子町の自然を町内外にお知らせすることで、一定数の観光につながったと考えられる。	80
		暮らし	〇年間を通じて、休憩時間など業務に支障がない範囲で電気の消灯に努める。片面再利用用紙の箱を設置し、裏紙利用による印刷用紙の節約に努める。	年間を通じて、節電・節約に努めることができた。	100
		環境教育	4施設(内子座・商いと暮らし博物館・上芳我邸・風博物館)で環境に関する資料を掲示し、利用者の意識啓発を行う。	4施設に掲示し意識啓発に努めた。	100

14	八日市・護国町並保存センター	自然	木蠟資料館上芳我邸において、木蠟の原料となるハゼノキへの理解を深める展示や企画を年1回以上開催するとともに、ハゼノキの実験圃場を整備・管理し、愛媛県固有種である「オオハゼ」の種の保存に努める。	○7/18-9/22にかけて、ハゼノキへの理解を深める展示企画として「木蠟の原料・ハゼノキー実の収穫から運搬まで」を開催し、1,330名の来場者を得た。 ○愛媛県固有種である「オウハゼ」の接ぎ木を行い、7本の苗木を実験圃場に新植した。	100
		暮らし	八日市・護国地区町並保存会で年4回以上伝統行事を再現し、行事の成り立ちや地域に根ざした暮らしについて理解を深めるとともに、来訪者に伝える。	○コロナ禍で、予定されていた町並保存会の伝統行事のほとんどが中止となり、1月のどんど焼きのみ実施した。 ○地区内有志を募り、古写真から地域の歴史や暮らしを学ぶ「古写真学習会」を開催し、成果報告会を通じて地区内住民や関係者に学習内容を共有した。	80
		暮らし	保存センターにおいて、伝統的建造物の環境負荷の低さを伝える展示を行う。	○保存センターにおいて、通年で伝統工法の環境負荷の低さを伝える展示を開催中。 ○町内の小・中学校より依頼を受け、伝統工法や町並み保存に関する解説を行った。(計2回)	100
		環境教育	学校や来訪者を対象とした木蠟や町並み保存に関わる体験学習を年2回以上実施し、内子の製蠟業の歴史と環境負荷の低い木蠟や伝統的建造物の良さを伝える。	○10月に内子中学校を対象とした蠟搾り体験学習を2回実施した。 ○定例の木蠟クレヨンワークショップを7回、ハゼノキの芯材を使った「楢染ワークショップ」を1回開催し、木蠟やハゼノキの文化の啓発につとめた。	100
15	ビジターセンター	自然	小田川や小田深山溪谷の自然環境、伝統的建造物群保存地区をはじめとする内子独自の景観を活かした誘客に関わる内容を、年2件は既存の事業に盛り込む。また環境をテーマにした視察対応の要請が生じたときは、環境政策室や関係機関と連携した独自のプランで受け入れる。	小田川の自然環境の魅力を伝える旅行商品の造成を行った。	95
		暮らし	温暖化対策・省エネルギーの普及として、3km圏内の移動手段は、なるべく自転車を利用するように努める。	できる限り努めたが、体調不良時や天候不良時などは車を利用したときもあった。	80
		環境教育	地域の環境教育意識の向上に寄与できるよう、ドイツフェスタや食のイベントではマイコップの推進やごみ分別を行う。特に地域諸団体と協働で行う事業については、自然美の見せ方や付き合い方を学び、その内容を内子町公式観光サイトで広く発信する。	イベント等がなく実施に至らなかったが、関係団体と協力し、自然環境の魅力を伝える旅行商品を造成し、内容をHPIに掲載した。	95

16	農林 振興課	自然	木こり市場プロジェクトを推進して森林保全と地域活性化を目指すため、木こり市場での木材取り扱い量の現状維持を目指す。	木こり市場プロジェクトの年間取扱量500tの目標を達成した。	100
		暮らし	廃プラスチックおよびビニールをJAと協力して回収し、リサイクルを推進するために、廃プラスチックの取り扱い量の現状維持を目指す。	例年どおり事業を実施し、広報などでの周知や農協との連携を行い目標を達成することができた。	100
		環境教育	農業委員会定例会で年1回以上は啓発資料を使って学習会を開き、環境問題について学習する。	農業委員会定例会で「今日からはじめよう。ごみダイエツ宣言」のパンフレットを配布し、町のごみ処理状況等を説明し、協力をお願いした。	100
17	学校 教育課	自然	小田深山宿泊体験(町内小学5年生対象)を実施し、小田深山の自然について体験学習し、学習した内容を各家庭まで広げていく活動を行う。	本事業は複数校で連合体を形成し小田深山での集団宿泊活動を実施しているが、令和2年度は新型コロナ感染拡大防止のため実施することができなかった。ただし、既存予算を活用して各校単位で独自にふるさと学習を実施した。	50
		暮らし	ノーマイカーデーを月1回以上実施する。	通勤経路が遠方にある職員が多いため、月1回の実施は困難であった。懇親会がある日などには乗り合わせに努めることとしていたが、コロナのため懇親会もなかった。	50
		暮らし	年1回、環境子ども会議の実施により、町内外に情報を発信し、内子町の取り組みを紹介することによって、環境教育による交流を図る	従来型の環境子ども会議はコロナのため実施できなかったが、環境政策室と連携し、R3.2.9に講師を武田林業(武田惇奨代表取締役)に依頼し、「内子の緑のダムって?」と題して、環境学習会を実施した。学習会はWeb会議システムを活用して、町内小学校から122人が学習した。	80
		環境教育	環境副読本の活用を図り、学級便り等で家庭への情報発信するとともに、研究を深めていく。	環境副読本は新4年生全てに配布を行った。環境に関する情報発信は、学校単位で対応した。	100
18	自治・ 学習課	自然	環境・景観保全や自然を生かした事業など、自然と共存していくための地域づくり事業実施を、自治センターを通じて年1回以上各自治会へ呼びかける。	各自治センターの管内連絡会において、それぞれ呼びかけを行った。	100
		暮らし	開催する会議にて、可能な場合はマイ箸マイコップ、リユース食器、または備品使用を推進する。(推進率30%)	コロナ対策により飲食を伴う会議の開催がなかった。	-

18	自治・学習課	環境教育	青少年海外派遣事業を通じて、ドイツなどの環境保全先進国で得ることができる取り組みを紹介する機会を年1回以上つくり、町内への拡大を図る。	青少年海外派遣事業は中止となったが、「ゆうていあ」10月号でドイツの環境先進国の取り組みを紹介した。	100
19	議会事務局	自然	年間を通じて、議員への資料提供は極力、両面印刷とする。	配布する際は、極力両面コピーで配布した。	80
		暮らし	会議時の弁当は、すべてリユースできる弁当箱使用の業者へ依頼する。	弁当注文の際は、毎回リユースできる業者に依頼した。	100
		暮らし	年間を通じて、議会後の懇親会では「20・10運動」を実施する。	今年度は懇親会を実施しなかった。	-
		環境教育	議場見学に訪れる小・中学生に対し、課の環境に関する取り組みを1回以上説明する。	議場見学の際、エアコンの設定温度の説明をした。	100
20	小田支所	自然	○小田深山の緑化推進(広葉樹植栽の実施) …年1回以上 ○自然体験型イベントの実施 …年3回以上	○3月に植樹を行った。 ○自然体験型イベントは、小田深山でのウォーキングイベントなど、多数行った。	100
		暮らし	○緑のカーテンの推進(苗の配布100本以上)と小田支所における実施 ○えひめAI-1の配布(年間150本以上)	○用意された苗をすべて配布した。小田支所においてもゴーヤ等の苗をグリーンカーテンとして植栽した。 ○えひめAI-1は月におよそ30本のペースで配布した。	100
		環境教育	すべての転入者へ、環境基本計画の取り組み周知、資料配布を行う。またごみの分別について啓発を行う。	転入者にエコロジータウンうちこのパンフレットを配布するとともに、自治会加入の案内、ごみ分別表、収集日カレンダー等を配布し、周知を行っている。	100
21	内子保育園	自然	子どもたちと一緒に作った腐葉土を年3回の土づくりに利用し、園の畑での野菜作りに継続して活用する。	季節ごとに土作りを行い、野菜作りを行った。その際、作った腐葉土を継続して活用することができた。	100
		自然	子どもと一緒に園の畑で野菜を栽培し、収穫した野菜を給食で活用する。	コロナ禍で収穫した野菜でクッキングの経験をする事ができなかったが、給食で調理し、食すことができた。	80
		自然	4期に1回以上、小田川や町並み散策に行き、清掃活動や自然観察を行う。	コロナ禍で園外保育への制限や自粛を行い、定期的な自然観察を行うことが叶わなかった。	50

21	内子 保育園	暮らし	毎月1回クリーンデイを設け、園の美化に努める。集めた草葉は腐葉土作りに活用する。	コロナ禍で集まっていた活動に制限があり、定期的な美化活動を行うことができなかった。不定期に行った。	50
		暮らし	アルミ缶・廃油の回収日を月2回設け、地域や保護者に呼び掛けて回収する。	感染対策を含め、外部の方の立ち入りを制限していたこともあり、積極的な呼びかけを行うことができなかった。	50
		環境教育	エコに関する集会を年5回以上開催し、楽しみながらエコ活動を推進する。	コロナ禍で集会の自粛・制限を行っていたこともあり、5回の開催はできなかったが、クラス単位で推奨に努めた。	70
		環境教育	年4回以上、町並み散策に出向き、幼児期の環境教育に力を入れる。	コロナ禍で園外保育への制限や自粛を行い、散策へ行くことが叶わなかった。園内でできる環境教育を模索し、エコ見回りなどを中心にエコ意識の向上を図った。	50
		環境教育	野菜や草花の世話や自然探索、清掃活動などを通じた子どもの気付きや成果を、年1回以上報告する機会を設ける。	大きな集会での発表は叶わなかったが、クラス単位での伝え合いを行えるように意識した。	70
22	五城 保育園	自然	畑で野菜を栽培し、園児と一緒に収穫・調理したり、給食の食材に活用したりするなど、年8回以上、食育の時間を設ける。	畑で栽培した野菜は、調理員と相談をして給食の材料として取り入れてもらったり、数が多かったものは家庭に自由に持ち帰ってもらい、食材として使ってもらったりした。コロナのため、食育教室は年2回しか行わなかった。	80
		自然	15㎡のグリーンカーテンを作り、電気代の削減に努める。	朝顔やゴーヤ、きゅうりで15㎡の『緑のカーテン』を作ったため、緑のカーテンの内側は涼しく、戸外遊び中に緑のカーテン内で涼む子どももいた。しかし、猛暑のため電気代の削減には至らなかった。	80
		自然	夏場は、プール遊びをする日とウォータースライダーをする日を決めたり、プール遊びで使った水は畑や花壇の水やりに毎回利用したりすることで、水道代の削減に努める。	コロナ対策のため、プールに入るクラスとウォータースライダーをするクラスに分け、ほぼ毎日両方行ったので、水道代の削減にはつながらなかった。しかしプール遊びで使った水は畑や花壇の水やりに毎回使用した。	70
		暮らし	園で栽培する野菜や花の種苗は、アルミ缶回収の収益で購入する。(年2回以上)	畑や花壇で栽培する野菜や花の種、苗はアルミ缶回収で得た収益金で年2回以上購入することができた。	100
		暮らし	保護者と連携を図り、家庭で不要になった物は年1回、東自治センター文化祭のフリーマーケットに出品し、資源の循環を目指す。	新型コロナ感染予防のため、東自治センターでの文化祭には出品しなかったが、不用品を集めた。不用品の数は例年より少なかったが、園内でフリーマーケットを開催し、資源の循環につながるようにした。	80

22	五城 保育園	暮らし	床暖用ペレットの灰は、畑の肥料にしたり、希望者に配布したりして、すべてリサイクルする。	床暖に使用するペレットの使用済み灰を畑にまいて肥料にしたり、家庭菜園をされている希望者に配布したりし、すべてリサイクルした。	100
		暮らし	月1回「みんなできれいデー」を設け、園児と一緒に園内の掃除・草引き・石拾いを行う。散歩時のごみ拾いなども行う。実施日には反省・評価を記入して目標達成に努める。	月1回、縦割りのグループに分かれて園庭の草引きや石拾いを行った。また、毎月実施日に反省や評価を記入し、目標達成に努めたり、次の課題を見つけることにつながった。	100
		環境教育	「エコだより」を年1回以上作成し、廃油やアルミ缶などのリサイクル状況を知らせ、協力を呼びかける。	エコ便りを配布し、園でのリサイクルの状況を伝えたり、協力をお願いしたことで、多くの方にアルミ缶や廃油を持ってくるもらい、リサイクルを行うことができた。	100
		環境教育	年長児がエコ見回りや園外への散歩に行く際は、ごみや空き缶などを拾って分別するなど、エコに対して興味・関心を持つ機会をつくる。	新型コロナ感染予防のため、園外への散歩を控えていたためにゴミ拾いなどは行えなかったが、紙芝居などの視聴覚教材を用いてエコの大切さなどを伝えるようにした。	50
23	大瀬 保育園	自然	暖房はペレット床暖房を主としてエアコンの利用を減らし、電気代を1%減らす。	電気代の詳細は分からない(小学校一括)が、ペレットによる床暖房の使用によってエアコン利用を減らせている。気温にもよるが昨年に比べてペレットの購入量も減っている。	100
		自然	年5回以上自然と関わり、生き物・植物・気候などに触れる活動を通して自然の大切さを知り、遊びや生活に活かす。	園庭や裏の空き地で草花や虫に触れることができた。	100
		暮らし	年3回以上、地域の方との交流(漁協組合との川遊び、老人会との亥の子すぼ作り、祝賀会など)を通して、昔の生活や遊び、地域を知り、今の生活につなげるようにする。	地域の方から川についての話を聞き、漁協組合の方に協力いただき川遊びを行った。 コロナのため、アユの放流・老人会との交流は中止した。	60
		暮らし	廃材を保育に取り入れ、月3回以上利用する。	制作活動や水遊びなどに廃材を利用した。	100
		暮らし	友達と一緒に野菜を作り、年2回、自分たちで料理して食べることで、生命のつながりを知り、感謝の気持ちを育む。	野菜作りを行い、給食室で調理してもらって食べた。 コロナ対策のため調理は行わなかった。	70
		暮らし	ダンゴムシやミズミズなど身近な生き物の働きを話し合ったり考えたりしながら、雑草や落ち葉、収穫が終わった畑の植物などを肥料にする。	裏の空き地に雑草や落ち葉などを集め肥料づくりを行った。 だんご虫やミズミズ、幼虫などを見つけたり、生き物の働きなどを学んだ。たい肥を畑にも混ぜて野菜作りを行った。	90

23	大瀬 保育園	環境教育	月1回「エコの日」を設定し、子どもたちとエコについて話し合ったり、活動したりする。(園庭の掃除、エコ見回り隊、分別の仕方、エコ集会など)	園庭の草引きや散歩時のごみ拾い、ごみの分別などを行いエコについて意識するよう取り組んだ。	80
		環境教育	漁協組合の人から川の魚について学び、興味や親しみをもち、期待を高めて川遊びに参加する。	達成できた。	100
		環境教育	エコ活動の実践の様子を年2回掲示し、保護者に知らせる。	クラスだよりやエコだよりでお知らせした。	100
24	五十崎 こども園	自然	○ミニ小田川や竜王公園での体験活動を年間通して行う。 ○年間を通してえひめA1-1を水やりや掃除等で使用する。	○それぞれのクラスで散歩や遠足を通して自然に親しんだ。河原のごみ拾いもできた。 ○えひめA1-1を清掃に利用した。	90
		暮らし	○年間を通じてペットボトルキャップやアルミ缶の回収を呼びかけ、保護者の協力を得ながらエコ活動を継続していく。 ○廃材や空き箱などを製作などに利用し、家庭にも再利用の情報を提供する。(年2回以上)	○呼びかけはエコだよりだけになったが、回収ボックスを設置し、保護者に周知できた。 ○廃材などは製作に利用し、家庭にも情報を提供した。	100
		環境教育	○牛乳パックのため洗い方法を知らせ、水を大切に使う。 ○年に1-2回、保護者や地域に向けてエコだよりを発行する。	○ため洗いが子どもたちの習慣になっている。少しずつ節水も身についており、エコチェックを行うことで意識して水を止めるようになった。 ○エコだよりを年1回発行した。	100
25	くるみ 保育園	自然	戸外活動時に自然物を収集し、室内に飾ったり、飼育したりするなど遊びに活用し、親しめるようにする。	散歩でメダカをみつけ園で飼育したり、散歩でみつけたシロツメクサで遊んだりして遊びに活用することができた。	100
		自然	子どもたちと一緒に野菜を育て、収穫した野菜は給食やクッキングで活用する。	夏野菜を育て、収穫したキュウリ、ナス、ミニトマト、スイカは給食で使ったり、家庭に持ち帰ったりして活用することができた。	100
		自然	グリーンカーテンを作り、日よけとして活用する。	職員室、保育室の前に風船カズラ、ゴーヤなどでグリーンカーテンを作り、日よけとして活用することができた。	100
		暮らし	廃油、アルミ缶、ペットボトルキャップの回収を月1回実施する。	毎月15日をエコの日と定めて廃油等の回収を実施した。保護者への周知もできてきており、エコの日に限らず対象物を持ってくる家庭が増えた。	100

25	くるみ 保育園	暮らし	給食で出た野菜や果物の皮は、すべて近所の農家に肥料として提供する。	給食で出た野菜や果物の皮のすべてを近所の農家の方に肥料として提供した。	100
		暮らし	毎月15日をエコの日(作業デー)とし、異年齢の縦割りグループで園庭の石拾いや草引きなどのエコ活動に取り組む。	幼児組を中心に園庭や畑などの草ひきや石拾いを行ったり、園内の拭き掃除をしたりしてエコ活動を行った。	100
		環境教育	「エコだより」を年2回以上発行するほか、エコ活動の様子を掲示し、保護者や地域に知らせて啓発につなげる。	今年度はエコだよりが1回しか発行できなかった。	70
		環境教育	散歩に出かけ、地域の産業や人々の生活、四季折々の自然などに関心が高まるような保育を心掛ける。	散歩にはよく出かけたが、地域との交流はコロナのため予定どおりには実施できなかった。	70
26	石畳 へき地 保育園	自然	○年間を通して散歩に行き、野原や山、川などの美しい自然に触れる。 ○地域のごみ拾いを年4回以上実施する。	○天候の良い日は戸外あそびを中心とした活動を実施することができた。散歩に行ったり川あそびをしたりして身近な自然に十分にふれ合うことができた。 ○ゴミ拾いを2回しか実施することができなかった。	60
		暮らし	○年間を通して、空き容器を再利用して製作したり、自然物を遊びに取り入れたりする。 ○当番を中心に電気の消し忘れや水道の蛇口の確認を行い、友達に呼びかけられるようにする。	○空き容器を使って共同製作をしたり、日々の保育の中で製作活動を十分に進めたりすることができた。 ○当番を中心に子どもたちが電気や蛇口を確認し、友達同士で呼びかけあうことが身についてきた。	90
		環境教育	○「エコだより」を年2回配布し、子どもたちの取り組みを家庭と共有する。 ○年6回以上、環境に関する絵本や紙芝居の読み聞かせを行う。	○エコだよりは1回しか配布できなかった。 ○年6回、環境に関する読み聞かせができた。	60
27	内子 児童館	自然	○職員が1人1回以上、ホタル観察などの自然観察会に参加する。 ○トイレや流しには、週1回、植物への灌水には、適宜「えひめAI」を使用する。	8/6小田・内子放課後児童クラブ合同で、小田深山で水辺の生き物観察を実施、自然に触れ合うことができた。	50
		暮らし	○月1回程度クリーン活動を行う。 ○年間を通じてペットボトルキャップの回収を行い、児童館だよりで年2回以上報告する。	○悪天候を除き、始業前に施設および周辺道路などのクリーン活動を実施した。 ○年間を通して、幼稚園、保育園、学校などから178.5kgのキャップの提供を受け、世界の子供たちにワクチンを寄付できた。	100

27	内子 児童館	環境教育	○エコに関する情報を、児童館便りや館内に年1回以上掲載する。 ○子どもたちと一緒に年3回程度、野菜や花の栽培を行う。	児童館内の菜園にて四季の農作物を植付、収穫、食すなど、労作活動を行った。また、玄関前には花の栽培を行った。	80
28	五十崎 児童館 きらり	自然	○廃材、廃品を利用して制作活動を年間2回以上行う。 ○プランター、花壇の水やりには、プール遊びで使った水を使用する。	○親子クラブの製作活動で廃材等を利用した。また、児童クラブでは随時子どもたちが製作活動ができるよう廃材を出している。 ○今年度はプール遊びはできない状態だった。	50
		暮らし	○グリーンカーテンを21㎡以上作り、節電につなげる。 ○年間を通して月1回以上のグリーン活動を行い、近隣の公園の清掃を行う。また通学路などのごみ拾いを年3回以上行う。	○きゅうり・ゴーヤ・ふうせんかずらでグリーンカーテンを作り、収穫した野菜をおやつとして出した。節電はできていない。 ○近隣公園の清掃を月1回行った。ごみ拾いには出かけることができなかった。	70
		環境教育	○アルミ缶・ペットボトルキャップ・廃油の回収を続ける。年3回以上、きらり通信や掲示を通じて利用者や地域の人にも協力をお願いする。 ○児童館・児童クラブで年2回以上、環境をテーマとした学習や活動を行い、資源の大切さを伝える	○アルミ缶・ペットボトル・廃油の回収は年間通して実施した。きらり通信にての協力はしていない。 ○原木シイタケの植菌体験を行い、保存食になるエコ食品であること、自然を大切にすることを学んだ。	60
29	内子子育て 支援 センター	自然	○施設周辺の掃除を週3回以上行う。落ち葉を集めて、たい肥作りを行う。ゴーヤのグリーンカーテンを10㎡設置する。 ○花や野菜の水やりにプールの水を再利用する。その際に、えひめAI-1を混ぜて行う。	○落ち葉を集めていた荒れ地を耕し、落ち葉を腐葉土にして、畑全体に撒き、畑を作り、芋や野菜を植えた。 ○プールは実施できず、水の再利用はできなかった。	90
		暮らし	○ペットボトルキャップ年間6kgの回収に努める。 ○リユースの仲介を年5回以上行う。 ○乳幼児学級、親子教室、来館者の親子を対象に廃材(トイレトペーパーの芯、牛乳パック、空き容器)を使っておもちゃなどを作る活動を年1回以上行う。またグリーンカーテンを再利用し、クリスマスリース作りを行う。	全てできた。	100
		環境教育	○内子産の野菜や旬の食材を使った調理活動を年1回以上行う。 ○乳幼児学級の保護者を対象に、環境学習会を年1回行う。 ○乳幼児学級や親子遊びで散歩に出かけた際、ごみ拾いを行う。	○レジ袋有料化に合わせて、保護者対象の環境学習会を行った。 ○調理活動や散歩は、コロナのため計画どおり行うことができなかった。	80

30	障害者 地域活動 支援センター かいと	自然	月1回程度実施するレクリエーション活動のうち年3回は自然に親しむ内容(花見・茶摘み・釣りなど)とする。	コロナのためお楽しみ会での外出行事を自粛した。	80
		自然	公衆トイレ清掃に行く際に毎回、周辺のごみ拾いを行う。	平日の公衆トイレ清掃時には毎回周辺のごみ拾いを行った。	80
		暮らし	年間約8回のイベントにおける自主製品販売のうち4回は、材料の1つに町産品を用いる。(ラベルに内子町産と記載)	自主製品販売では、内子町産の花を使ったフラワーアレンジメントやリングを使った菓子を製造した。	100
		環境教育	月1回は朝礼か終礼の際にエコに関する情報や取り組みの話題提供を行う。	月1回、夏冬場のエアコンの温度設定や廃油石鹸、ゴミの分別などの話題提供を行った。	100
31	内子 幼稚園	自然	年間を通してえひめAI-1を水やりに使用し、野菜や植物を栽培する。	プールの水を野菜や植物の水やりに活用することができた。えひめAI-1は排水溝に流すなどして使用したが、植物等にも積極的に活用していきたい。	80
		自然	毎月園外に出かけ、身近な自然に触れたり内子の文化を学んだりする。	コロナ禍で思うように散歩に出かけられない時もあったが、出かけた時には、四季が感じられたり内子の自然に十分に触れることができた。	80
		暮らし	日々の保育の中で廃材や空き箱を利用し、再利用の大切さを知らせる。	家庭から廃材を持って来てもらい、保育や作品づくりで活用した。製作する時は、テープ等の使い方も無駄遣いにならないように繰り返し声をかけるようにした。	100
		暮らし	給食の牛乳パックはため洗いし、すべりサイクルする。	年間を通して、毎日の牛乳パックをリサイクルすることができた。	100
		環境教育	年2回エコだよりを発行して幼稚園での取り組みを保護者に伝え、家庭の意識啓発につなげる。	年2回エコだよりを発行することができた。「野菜の栽培」「自然について」「エコ隊」等を伝え、園でのエコ活動を知ってもらうことができた。	100
		環境教育	エコについての読み聞かせやエコ学習を年2回行う。	保育の中に紙芝居等でエコに関することを伝えたが、エコ学習会は実施できなかった。	60
32	立川 幼稚園	自然	年間を通して、野菜や植物などの水やりにえひめAI-1を使用する。	野菜や植物などを育てたが、えひめAI-1を使うことはなかった。	50

32	立川 幼稚園	暮らし	年間を通して、保育活動で廃材を使用する。家庭にも呼び掛ける。	廃材を使って制作をした。家庭にも廃材の再利用を園だよりなどで知らせることができた。	100
		環境教育	○年間を通して、自然保護の大切さを絵本や紙芝居などの教材、散歩などの活動を通して伝えていく。 ○年1回、環境マイスターによる自然保護の学習を行う。 ○年1回、園だよりに環境についての記事を掲載し、家庭にも知らせる。	○自然保護の大切さをその都度伝えることができた。 ○園だよりに環境についての記事を載せることはできなかったが、環境マイスターを招き、親子で自然保護の学習をすることができた。	80
33	小田 幼稚園	自然	○地域と連携し、小田の自然に親しむ活動を年1回以上行う。 ○月1回は散歩に出かけ、地域や自然に親しむ。	○行事に追われてしまった月もあり、毎月散歩に出られなかった。	70
		暮らし	○年1回以上、廃材や廃品の回収を家庭に呼びかけ、製作材料にする。 ○給食の牛乳パックはため洗いをし集め、すべてリサイクル回収に出す。	○廃材の回収にたくさん協力してもらうことができた。集まった廃材を使って製作や、ごっこ遊びを楽しんだ。 ○集まった牛乳パックはすべてリサイクルすることができた。	80
		環境教育	○月1回程度、エコに関する紙芝居や絵本などの読み聞かせを行う。 ○学期に1回、エコ集会をする。 ○年3回以上、エコだよりを発行する。	○毎月1冊以上のエコ関連の絵本等を読み聞かせるのは、園内の物では限りがあった。日々の生活の中で、水や電気の大切さを伝えることができた。	50
34	内子 小学校	自然	○年3回以上、節水に関する学習を継続し、手洗い・うがい・歯磨き時に節水に心がけるよう指導する。	各学年において、手洗い・うがい、歯磨きなどの際に節水に心掛ける学習を行った。子どもたちは、節水の意識は高まっている。	90
		暮らし	○アルミ缶、ペットボトルキャップ集めの週間を月1回設定し、保護者や地域にも働きかけ、年間を通して回収を行う。	毎月、アルミ缶とペットボトルキャップ集め強調週間を設定し、児童や保護者に呼び掛けた。年間を通して、回収することができた。	85
		環境教育	○小田深山での集団宿泊活動や環境子ども会議に向けて、内子町の自然や環境について学習し、理解を深める。(5年生・年間30時間) ○外部講師と連携しながら環境学習を進める。(年間12回)	○小田深山の宿泊体験活動は実施できなかったが、2学期の遠足で5年生が小田深山に行った。 ○外部講師を招き、小田深山について理解を深めることができた。	70
35	大瀬 小学校	自然	○総合的な学習の時間・生活科を通して大瀬地区の環境保全について理解を深め、その体験学習を家庭に広げる取り組みを行う。 ○ペレットストーブの稼働により、灯油の使用量を減らす。	○5年生が環境について学ぶ機会を得たが、家庭へ広げるには至らなかった。 ○コロナ対策のため換気を徹底したことから、暖房用燃料について増やさざるを得なかった。	60
		暮らし	ゴミの分別、廃棄物の適正な処理を心掛ける。	ゴミの分別はできたが、コロナ対策として給食の牛乳パックを可燃ゴミとしたことから、ゴミの量が増えた。	80

35	大瀬 小学校	環境教育	リサイクルゴミの分別を確実に行うとともに、アルミ缶回収を定期的に行う。	地域の方の協力も大きく、多くのアルミ缶を回収できた。	100
36	立川 小学校	自然	校内の落ち葉収集を週に3日以上実施し、校内での腐葉土としての利用を促進する。	落ち葉の多い時期には、毎日落ち葉収集を行った。校務員さんに協力をしていただき、校内で利用した。	100
		暮らし	アルミ缶回収を広く地域にも呼びかけ、年間150kg以上のアルミ缶回収を目指す。	今年度もアルミ缶回収だけでなく、古着や古紙の回収なども呼びかけて地域の方に協力をしていた。今年度はアルミ缶200kg、古着・段ボール80kg回収した。	100
		環境教育	森林や川等の自然に関する体験学習を年間1回以上実施する。	稚鮎の放流や椎茸植菌など環境に関する体験学習を行った。学期に1回はできなかったが、1年を通して3回実施することができた。	100
37	石畳 小学校	自然	里地里山の再生のため、地域の協力を得て、全校児童が休耕田を利用したそば作り、米作りを行う。収穫後は、そば打ちをしたり餅をついたりして、年6回以上地域の方々と交流を図る。	そばの種まき・収穫・そば打ち、田植え・稲刈り・餅つきと年間6回、地域や保護者の協力を得て行事を行うことができた。例年行っている鮎の放流は行うことができなかったが、自然に関わる取組を独自に行うことができた。	80
		自然	えひめAI-1を月1回以上、排水溝に積極的に活用する。プール利用前には40Lずつ3回活用する。	コロナ対策のため町内小・中学校は水泳の授業を取りやめ、夏休み中のプール開放も行わなかった。そのため活用はできなかった	-
		暮らし	定期的に児童や保護者、地域の方々に呼びかけて、アルミ缶回収を行う。	地域の方々へも積極的に回収を呼びかけ、多くのアルミ缶を回収することができた。	100
		暮らし	夏の日差し・暑気を防ぐため、6-11月の間、児童会室と職員室の南に6㎡の緑のカーテンを設置する。	職員室の南にヘチマを植え、緑のカーテンを作った。かなり生育がよくグリーンカーテンとなり、日射しを和らげ、効果的であった。児童会室前は実施できなかった。	60
		環境教育	年間を通じて、環境子ども会議に向けて1年間どのような取り組みをしていくか教師・児童共に話し合い、学年末にはその成果や改善点を評価する。	子ども環境会議はリモート開催になったが、内子町の森林の働きや林業の様子についてよく理解することができた。石畳小学校の取組については、しっかりと伝えることはできなかった。	80
		環境教育	毎月の学校便りや学級通信を活用して年3回以上、アルミ缶回収・えひめAI-1の活用・環境教育の実践などの取り組みを紹介する。	毎月発行する校報等を通して、本校のアルミ缶回収や、環境教育の実践について家庭や地域の人々に紹介することができた。	100

38	五十崎 小学校	自然	学級園にて花や野菜を年間2回以上 植え、世話をする。	年2回のプランターへの苗植えを行い、 美化委員会を中心に花の世話をした。 学年での活動として、ピーマンやミニ トマト、ジャガイモやヘチマなどを育て、 学習のめあてを達成しながら、植物の 成長や収穫の喜びを味わう体験へとつ なげることができた。	100
		暮らし	家庭・地域に協力を呼び掛けて毎週1 回、アルミ缶回収を実施する。	牛乳パックは、コロナ対策のため今年 度は洗浄せず廃棄した。アルミ缶は、 児童・保護者だけでなく地域の方にもた くさん持ってきていただくことができ、回 収に協力いただいた。	100
		環境教育	年3回以上、各学年で取り組んだ環境 教育の実践を学校便りやホームページ 等で紹介し、家庭や地域に情報を発信 する。	ホームページをほぼ毎日アップすること ができ、環境教育に関する実践も写真 を掲載し、分かりやすく伝えることがで きた。また地域の方がアルミ缶回収に協 力してくださっている様子を紹介するこ うができた。	100
39	天神 小学校	自然	落ち葉等で堆肥を作り、学級園で活用 する。ヘチマ栽培でグリーンカーテンを 作る。	落ち葉を使った堆肥作りはできなかった。 ヘチマでグリーンカーテンを作って 活用することができた。	60
		暮らし	保護者や地域にアルミ缶回収を呼び掛 け、アルミ缶を売却し、その収益で花の 種や野菜などの苗を購入する。	積極的にアルミ缶回収を呼び掛け、リ サイクル運動を広げることができた。ま た得たお金で花の苗を購入し、植物の 世話をすることができた。	100
		環境教育	ごみの分別について子どもたちに理解さ せ、家庭地域へも啓発を図る。環境学 習に取り組んだ折には、学級便りや ホームページで発信する。	総合的な学習の時間等で環境学習を行 い、学級通信やホームページで活動 の様子を保護者や地域に伝えることが できた。ゴミの分別については、まだ丁 寧にできる余地がある。	80
40	小田 小学校	自然	さつまいもの栽培、収穫、料理等、自 治会と協力した活動を年2回以上行 う。	寺村自治会指導員の協力により苗植 えを行っていたが、コロナ禍で活 動がすべて中止となり、実施できなかつ た。	-
		自然	小田川に親しむ活動を年6回以上行 う。	臨時休校はあったが、理科や総合的な 学習の時間を活用して水生生物調査 など、各学年が小田川に親しむ活動 を実施することができた。	100
		暮らし	印刷ミス用紙の裏側を利用してメモ用 紙等を20冊以上作り、活用する。	多くはできなかったが、伝言用紙やメモ 用紙を手作りし、校内文書については 両面印刷や裏面印刷を心がけた。	70
		環境教育	ホームページや学校便りに、学期に1回 以上、環境に関する実践やエコに関す る記事を掲載する。	学校便りやホームページに、児童の自 然体験活動や苗植の様子を掲載した。 8月のPTAびん類回収のお願いや、回 収活動の様子も掲載した。紙ゴミの分 別、節水等については児童が進んで実 践している。	100

41	内子 中学校	自然	年1回、PTAと協力して敷地内の草刈りを実施する。	8月に実施。	100
		自然	年1回、3年生全員が廃油石けんづくりを体験する。	2学期に総合的な学習の時間で実施。	100
		暮らし	牛乳パックを回収し、年間50ロール以上のトイレトーパーへのリサイクルの促進を目指す。	コロナ対策のため、牛乳パックを回収することができなかった。	0
		暮らし	生徒会活動の一環として、最低月1回、アルミ缶を回収する。	毎月実施中。	100
		環境教育	環境子ども会議への参加者を、1年生全員とする。	環境子ども会議中止のため参加できなかった。	-
		環境教育	学校だよりやホームページを通じて年3回、学校の環境に関する取り組みを紹介する。	毎月1回は紹介している。	100
42	大瀬 中学校	自然	校内の落ち葉収集や除草活動を継続的に行う。	落ち葉の時期には生徒会が始業前ボランティアを募り、毎日落ち葉収集を行った。落ち葉がない時期には中庭の草引きを自主的に行っている。また夏に草が生える時期は、教職員が草刈り機を使用して行っている。	100
		暮らし	各月の電気、水道、ガス、紙、冬の灯油の使用量を職員に回覧することによって、使用量を減らそうという意欲を高める。	コロナ禍にあって、4-5月臨時休業であった割には使用量が抑えられていない。紙の使用量増加は、臨時休業中に全校生徒分の各教科の課題やコロナ関連のお知らせを大量に印刷したためと考える。	80
		環境教育	生徒会保健委員会の活動を中心に、毎週木曜日に資源ゴミの回収に努めるとともに、生徒集会で取り組み等を発表し、環境に配慮した生活を意識づける。	保健委員会が中心となり、毎週木曜日の資源ゴミの回収を丁寧に行っている。しかしコロナ禍にあって集会活動等の制限があったため、掲示物を作成してSDGsの取組を全校に広報した。	90
43	五十崎 中学校	自然	○1カ月に2Lペットボトルで5本分のえひめAI-1を散布する。 ○卒業証書はすべて地域内で生産された和紙を使用する。	○委員会活動(環境委員会)の取組として、目安どおりAI-1を散布することができた。 ○すべて地域内で生産された和紙を使用できた。	100

43	五十崎 中学校	暮らし	牛乳パックを毎日回収し、トイレトーパーへのリサイクルをする。	コロナ対策として、感染警戒期・対策期は牛乳パック洗浄にリスクがあるため行えなかった。感染縮小期において段階的に牛乳パック回収を行った。教職員は感染対策を十分に行い、通年回収に努めることができた。	50
		環境教育	環境副読本を利用した授業を1回以上、各学年で行う。	コロナ禍で、副読本を複数人数が使用することにリスクがあるため、口頭での授業にとどめた。	50
44	小田 中学校	自然	えひめAI-1を週1回、トイレと洗面所に使用し、学校便り等を通じて学期に1回保護者に利用促進を呼びかける。	年間通して利用を継続し、環境衛生面で効果を得ることができた。またPTAの会や校報「せせらぎ」で利用促進を呼びかけた。	100
		自然	1年生による農業体験学習や全校生徒によるふるさと学習を年5回実施する。	ピーマンの収穫作業、出荷作業等の農業体験学習を実施した。	100
		暮らし	生徒会環境委員会を中心に地域住民・事業所に対して働きかけ、年500kg以上のアルミ缶の回収を目指す。	地域の協力を得るとともに、回収強調週間を設けて全校生徒および教職員で努力したが、年間の回収量は480kgで目標を達成することはできなかった。	75
		暮らし	牛乳パックを回収し、年50ロール以上のトイレトーパーへのリサイクル促進を目指す。	回収率100%を達成できた。	100
		環境教育	生徒会環境委員会による取り組み発表会を年1回以上実施する。	コロナにより授業時間確保を優先したため、実施できなかった。	0
		環境教育	生徒会本部投げかけによるボランティア清掃を毎月2回以上実施する。	達成している。	100
		環境教育	環境子ども会議に1年生全員が参加し、町内の活動について学習するとともに保護者の参加を呼びかける。	会議が開催されなかった。	-
45	内子 学校給食 センター	自然	給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を50%以上とする。	給食で使用する町内産食材の割合(重量ベース)を50%以上とした。	100
		暮らし	廃食油すべてをBDFとして活用する。	廃食油すべてをBDFとして活用した。	100

45	内子 学校給食 センター	環境教育	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付する。	毎日の献立に関する食情報・思いを給食時放送文として各学校に送付できた。	100
46	小田 学校給食 センター	自然	給食の食材における町内産野菜の使用率65%以上を目指す。	町内産野菜類の使用率65%を目指していたが、「からり」からの購入量が増えたことによって、63%の使用率となった。	97
		暮らし	廃食油すべてを再利用する。	配食油はNPO法人「サン・ラブ」で全て再活用していただいた。	100
		環境教育	環境に関する教育を、施設において年3回以上開催する。	環境に関する会合を施設で年3回行った。	100
47	図書 情報館	自然	館内に飾る花は、町内の自然の花を使用する。	館内に飾る花は、すべて町内の花を使用した。	100
		自然	西側花壇では、季節の草花を植栽し心安らぐ景観づくりに努める。	冬は自治会が育てた花を購入し、夏はコキアを植えて、心安らぐ景観づくりに努めることができた。	100
		暮らし	雑誌のリユース率を80%とする。	雑誌635冊のうち563冊が持ち帰られ、リユース率89%だった。コロナ対策として密にならないよう一度にリユースをしなかったためリユース率は前年に比べ低かった。	80
		暮らし	ペットボトルのキャップ収集に協力する。	館内に収集箱を設置し、利用者に協力をしてもらった	100
		暮らし	牛乳パックを収集し、再利用に努める。	ボランティアグループや職員から牛乳パックを収集し、ブックスタンドを製作し館内展示に利用した。	100
		環境教育	エコロジーに関する資料を収集し、年1回は広報等で知らせる。	広報で7回周知し、資料は7冊蔵書した。	100
		環境教育	学校等でのブックトークを通して年4回以上、子どもたちへの環境教育資料をアピールする。	ブックトークの中で環境教育資料を8回アピールしたほか、8月の企画展で環境に関する展示、年間6回エコおはなし会を実施した。	100
48	内子 自治センター	自然	愛護班による活動の中で、自然に関することを学ぶ活動を複数の班で実践する。	行灯作りやマイバック作り、ブドウ狩りなどを計3班にて実施できた。他の班はコロナのため中止となった。	50

48	内子 自治センター	暮らし	夏場の室温を下げるため、緑のカーテンを事務室の窓全面(6.8㎡)に設置する。またサン・ラブの協力の下、ゴーヤ苗およそ50株を配布し、緑のカーテンの普及に努める。	地域住民の皆さんにゴーヤの苗を持って帰っていただき、余った分を使ってグリーンカーテンを育てた。	100
		環境教育	自治会連絡会や高齢者大学の講座などにおいて、環境教育をテーマとした学習会を年2回以上行う。	コロナにより自治会連絡では複数の行事ができない状況になり、環境に関する学習会も実施できなかった。高齢者大学は開催全体を見送ることとなった。	-
49	内子東 自治センター	自然	東自治センターの主催事業において、環境保全に関する体験活動を年1回以上実施する。	小田深山デイキャンプを8月に実施し、立川小と石畳小の全校児童に環境保全体験活動ができた。	100
		暮らし	緑のカーテンの苗を配布し、コンテストに自治センター管内から1件以上の応募を呼び掛ける。	苗は配布したが、応募はいただけなかった。	50
		環境教育	環境に関する記事を自治センターだよりで年1回以上掲載する。	各自治会の環境整備事業を紹介した。	100
		環境教育	環境問題に関する情報を館内で閲覧し、情報共有をはかる。	エコオフィス推進委員会の資料を閲覧し情報共有をはかった。	100
50	大瀬 自治センター	自然	「第45回大瀬農業祭柿まつり」の成功に向けて、柿などの特産品を町内外に広くPRする。特に町外では2回以上実施する。また地元で採れた果樹や農産物を中心とした軽トラ市を10台以上で実施する。	事業中止	-
		暮らし	施設利用者に対して使い捨て容器の使用の自粛を啓発し、自粛率80%以上を目指す。	飲食禁止	-
		環境教育	エコセミナー活動の内容を精査し、より充実させ、年10回以上実施する。実施することにより、子ども達の環境に対する意識を高め、郷土愛を育てる。	事業中止	-
51	五十崎 自治センター	自然	環境学習会を、元気わくわく川まつりのイベント時に実施する。	コロナのため、今年度は実施することができなかった。	-
		自然	学習会の中で水中生物等に触れ、生態系で生物がどのように環境とつながっているのか勉強していく。	五十崎児童館の子どもたちと、あけぼの橋下周辺の小田川で水生生物調べを行うことができた。	100

51	五十崎 自治センター	暮らし	肥料場で肥料を作り、自治センター周辺の植栽等に活用する。	自治センター裏花壇に活用したり、館報で情報発信して自治会にも活用できるようお知らせした。	100
		環境教育	センターだよりにて、環境に関する記事を掲載していく。	紙面構成等で掲載できないことが多かったが、載せることはできた。	50
52	小田 自治センター	自然	敷地内の落ち葉は堆肥化もしくは土に返す。堆肥は希望者にすべて無料配布する。	草刈りや落ち葉清掃の後、希望者に随時無償提供している。 希望がない場合は敷地内で堆肥化している。	70
		暮らし	○本館・分館間での図書移動の際の梱包材・緩衝剤は、購入時に同梱されている物を再利用する。 ○生活の中で生かせるような環境関係図書を年間10冊以上購入する。	○図書の緩衝材はリユースできるようストックしているが、梱包の機会がなかった。 ○図書室では環境や自然に関する書籍を数冊購入しており、年度内に10冊程度蔵書した。	80
		環境教育	自治センターだよりに環境に関する記事を年2回以上掲載する。	9月号(温暖化問題とエコバッグ)と2月号(持続可能な森林経営・カーボンニュートラル)に掲載した。	100
53	社会福祉 協議会	自然	針無しホッチキスを積極的に使用し、針の消費量を減らす。	民生委員へ毎月配布している書類について、半数以上は針無しホッチキスを使用し、針の消費量を減らすことができた。	90
		暮らし	外出支援(ミニデイ)サービス利用者に、毎回買い物時エコバックの持参をお願いをし、家庭でも家族に周知していただけるようお願いする。(年12回)	ミニデイの実施月には、毎回案内文書にてエコバックの利用促進について周知を行うことができた。	100
		暮らし	ごみ捨て時にナイロン製の袋を使わず、新聞紙や耐水性のあるコピー用紙の包装紙等を使用する。	毎日のごみ捨てで新聞紙や広告紙、コピー用紙の包装紙等を使うことでナイロン袋を使うことなくゴミ捨てをすることができた。本来であれば捨てる物を活用することで環境問題に貢献することができた。	100
		暮らし	支援センターにおいて、不要なFAXの印刷を年間200枚減らす。	4-12月の間に413枚減らすことができ、目標の2倍近くを削減できた。	100
		環境教育	サロンや協議体においてごみ分別について課題が上がれば、積極的に環境教育の機会へつなげる。	コロナによりサロンや協議体活動のほとんどが中止になった。代わりに家庭で簡単に作れる「新聞紙で作れるエコバックの作り方」を各サロン利用者等に配布し、好評の声をいただくなど、ごみ問題(ビニール袋)への意識を高めることができた。	100

54	みどり苑	自然	施設所有の畑を利用し、入所者・利用者・ボランティアが年間を通じて栽培した季節の野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)を収穫し、施設用の食材として利用する。	入所者・利用者と共に栽培した野菜(玉ねぎ、ジャガイモ、スイカ、さつまいも等)、や施設内の竹林で収穫したタケノコを食材として利用した。	100
		暮らし	施設から排出される食用廃油の100%再利用化(石炭・車用燃料)を図る。	サン・ラブにより施設から排出される食用廃油のすべて回収してもらい、再利用化を図った。	100
		環境教育	施設発行のみどり苑だより(年4回発行予定)や家族会(年1回開催)を利用し、入所者・利用者・各家庭に対して、年2回以上みどり苑の環境への取り組みを周知する。	施設発行の「みどり苑だより」へ、グリーンカーテンの取組を掲載した。	50
55	神南荘	自然	厨房から出る廃食用油はサン・ラブの回収に出し、すべてBDF燃料として地域内使用に回す。	厨房から出る廃食用油を地元NPO法人に回収いただき、BDF燃料として地域内使用にまわした。	100
		自然	厨房から出る残飯はすべて地元農家で飼料として使用してもらう。	厨房から出る残飯全てを定期的に地元農家に回収していただいた。(飼料として使用済)	100
		暮らし	普通浴に利用している古田鉱泉については、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理を行うことで水道使用量を抑える。	普通浴に古田鉱泉を利用し、源泉から施設までの配管や貯水タンクの維持管理に努め、水道使用量を抑えることができた。	100
		暮らし	節電に努め、二酸化炭素排出量を抑える。	節電に努め、CO2排出量を抑えた。	80
		環境教育	来荘の業者には、アイドリングストップや搬入資材の持ち帰りを依頼する。また”施設へ出入りされる業者の皆様へ(お願い)”のチラシを配布する。	業者にアイドリングストップを呼び掛けるとともに、搬入資材はすべて持ち帰っていただいた。また”施設へ出入りされる業者の皆様へ(お願い)”のチラシを配布した。	80
		環境教育	毎朝の朝礼で最低月1回、毎月の職員会で4回以上、エコオフィスの推進を呼びかける。	毎朝の朝礼で最低月1回、毎月の職員会で4回以上エコオフィスの推進を呼びかけた。	100
56	内子フレッシュパークからり	自然	毎月敷地内の清掃を行う。(落ち葉は堆肥用に出荷者へ提供する)。6,7,8月は隣接する小田川周辺河川敷の除草、9,10月は河川敷のごみ拾いを行う。	敷地内清掃はもちろんのこと、河川敷の草刈りは頻繁に行い、紫陽花、彼岸花、水仙の植樹など積極的に行った。河川敷のごみ拾いは草刈りの都度行った。	100
		暮らし	プラスチック製品削減活動としてマイバック持参の呼びかけとともに、エコバックを販売する(年間を通じてPR活動を行い、定着を図る。)	レジ周辺にマイクロプラスチックによる海洋汚染の啓発ポスターを掲示。エコバックの展示販売。また出荷者へエコバックの製造を呼びかけ、お客様に選択肢を増やした。	100

56	内子 フレッシュ パーク からり	環境教育	プラスチックごみ問題についての掲示 を引き続き行う。(年間を通じて)	年間を通じて掲示はできたが、情報の 更新が行われず、マンネリ化してしまっ た。	50
57	小田の郷 せせらぎ	自然	特産品売り内において、90%以上地元 で作った野菜を販売し、地産地消に努 める。	特産品売り場内において、100% 地元 で作った野菜を販売した。	100
		暮らし	年間を通じて、お客様や生産者、職員 に対しエコバックやマイ箸の協力を呼び かけ、またPOP等で周知する。職員はエ コバックを100%持参する。	年間を通じてお客様や生産者にPOP等 で周知し、呼び掛けを行うことができ た。またレジ袋の有料化に伴いマイバッ グの持参率も高かった。職員は100% マイバッグ持参ができた。	100
		環境教育	業者に対し、搬入時の資材はすべて回 収していただくよう呼びかけを行う。	業者に職員が呼び掛けを行い、100% 資材を回収して頂いた。	100
合 計	自然	74			86.4
	暮らし	84			89.8
	環境教育	75			84.8
	計	233			87.1

4. 内子町環境マネジメントシステム“うちエコ” 取り組み状況

(1) “うちエコ”とは

内子町は現在、「第2次内子町環境基本計画（後期計画）」や「地球温暖化対策実行計画 事務事業編（第4次内子町エコオフィスプラン）」に沿って各種の環境施策を展開しています。そして、これらの計画を効率的かつ効果的に推進していくため、内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”により、取り組みの進行管理を行っています。

マネジメントシステムとは、取り組みの方針および目標を定め、目標達成のための体制や手法などを整えた「仕組み」です。内子町は平成18年（2006）に、自治体向けに開発された環境マネジメントシステム「環境自治体スタンダード LAS-E（ラス・イー：Local Authority's Standard in Environment）」を導入し、同24年（2012）に最高レベルである第3ステージの認証を取得しました。その成果を基に内子町により適した独自規格として“うちエコ”を構築。LAS-Eが掲げる「住民参加の環境づくり」の理念を引き継ぎ、町民との協働による「エコロジータウン内子」の実現を目指して、同29年（2017）から運用しています。

“うちエコ”により、PLAN（計画・目標）－DO（実行）－CHECK（点検・評価）－ACTION（見直し）のサイクルを明確にし、これを繰り返すことで、取り組みの継続的な改善を図ります。

[参考] 内子町における環境マネジメントシステム導入の経緯

1992年（平成 4年）	環境自治体会議加入
2001年（平成13年）	内子町エコオフィスプラン策定（内部監査の実施）
2005年（平成17年）	環境自治体会議うちこ会議開催
2006年（平成18年）	内子町環境基本計画策定 環境自治体スタンダードLAS-E 導入 第1ステージ合格（12月20日）
2009年（平成21年）	第2ステージ合格（12月28日）
2012年（平成24年）	第3ステージ合格（12月27日）
2017年（平成29年）	内子町環境マネジメントシステム“うちエコ”導入

（２）令和２年度 うちエコ監査

本年度のうちエコ監査は、新型コロナウイルス感染症の影響により、初めて一部を書面にて行いました。現場を訪問して職員と相対し、環境意識や取り組み内容についてコミュニケーションを図りながら聞き取りを行う従来の方法とは異なり、少なからず一方通行で画一的なやり取りになってしまった感があり、評価の難しさを感じました。さまざまな事態を想定し、今後の監査方法について継続的な改善を図っていきます。

なお例年と同様に、町の環境政策にかかる研修の一環として、新規採用職員が監査に参加しました。

①監査の日程・方法

監査日程： 推進本部 令和３年１月１８日（月）
 実行部門等 令和３年１月２１日（木）～２月１日（月）
 全体協議 令和３年２月１６日（火）
 監査方法： 監査員による聞き取りおよび書面監査

②対象部署

NO.	区 分	部 署 名 等
1	推進本部	町長
		教育長
2	実行部門	総務課
3		税務課
4		こども支援課
5		内子総合窓口センター
6		学校教育課
7		小田支所
8		大瀬小学校
9		石畳小学校
10		五十崎小学校
11		小田小学校
12		内子中学校
13		大瀬中学校
14		五十崎中学校
15		小田中学校

16		小田学校給食センター
17		八日市・護国町並保存センター
18		大瀬自治センター
19		小田自治センター
20		参川福祉館
21		道の駅 小田の郷せせらぎ
22	事務局	環境政策室

※令和2年度うちエコ取り組み部署数：61 部署

③監査結果

1) 総合所見

令和2年度のうちエコ監査は、推進本部・実行部門20部署・事務局を対象に実施しました。

このうち実行部門および事務局の監査は、実施予定日を前に町内で新型コロナウイルスの感染事例が確認されたことから、やむなく監査委員の訪問を中止し、書面監査としました。書面による監査は初の試みでしたが、やはり現場にて対面で聞き取りを行うのとは異なり、掘り下げた質疑ができず、やや画一的・表層的となってしまった感は否めません。今後のためにも、今回のような不測の事態における監査方法について検討しておく必要があると考えます。

なお従来の監査では、☆（特に優れた取り組み）◎（良好な取り組み）○（取り組んでいる）△（改善要望事項）×（勧告事項）の5段階で評価を行います。書面では細かな判断が難しいことから、今回は☆を除く4段階評価としました。その結果、◎42個、△1個となりました。

また今回は監査方法の違いから過去の事例との比較が困難なため、優良部署表彰の選考は行わないこととしました。

実行部門の監査は、昨年度に続き課題となっている「住民との協働や広がり」「部署内での情報伝達・共有」に加え、本年度からスタートした「環境基本計画（後期計画）における取り組み状況」に重点をおいた15の設問に回答をいただきました。

このうち良好な取り組みとして、「環境基本計画（後期計画）における取り組み状況」について、小田支所・町並保存センター・小・中学校などにおいて、コロナ禍にあっても感染対策やさまざまな工夫を施し、前向きに事業実施に努められている事例を高く評価しました。

また「部署内での情報伝達・共有」では、オンラインによるデータ共有の事例が多く見られました。コピー用紙の使用量削減にもつながっており、さらなる進展が

望まれます。

その他、今年度 10 月から始まった新ガイドラインに基づくグリーン購入について、学校教育課では会計用 PC に記録用のエクセルファイルを準備し、伝票起票の際にあわせて入力することで事務の簡素化を図れるよう、独自の工夫がなされていました。他部署の参考になる優れた取り組みであると考えます。

なお今回、コロナ禍における換気の必要性から、学校現場では室温調節が難しく、かなり厳しい学習環境にあることがうかがえました。庁舎など他の施設に比べても、学校等に求める換気の基準は高く設定されています。施設の状況なども各々異なるため、エアコン等の使用については一律とせず、エコとは別の視点で捉えて、町としての方針を示すことも必要と考えます。

推進本部の監査では、退任される稲本町長に、任期中の環境政策について総括していただきました。LAS-E の導入、そして“うちエコ”の推進と、環境自治体としての取り組みの土台を築いてこられた立役者であり、次期町政においても、これらの取り組みが継承され、さらに発展していくことを期待しています。

事務局の監査では、幼稚園・保育園等と一体となった活動が広がっている点を高く評価する一方、うちエコのシステム全般に対する評価を（改善要望事項）としました。監査をはじめとするうちエコの運用について、マンネリ化や負担を感じているとの現場の声があることを踏まえ、次年度からの工夫を求めます。

「エコロジータウン内子」を掲げたまちづくりを推進し続けて約 30 年が経過した今、あらためてその目的を問い直すとともに、地球環境の危機に立ち向かう手立てをどうするのか、行政としての目標を整理すべき時期にあるのではないかと考えます。そして町民に向けた発信、町全体の取り組みのステップアップにつながっていくことを期待します。

④評価結果

1) 推進本部

NO.	設問内容	評価				
		◎	○	△	×	—
1	町長／総括	1				
2	町長／エコオフィス・環境基本計画の指示		1			
3	町長／マネジメントの運用（協議・指示）		1			
4	町長／マネジメントの運用（取り組みの拡大）		1			
5	教育長／環境教育の取り組み（子ども）	1				
6	教育長／環境教育の取り組み（一般）	1				
合 計		3	3	0	0	0
達 成 率（○以上の項目／全6問）		100%				

2) 実行部門

NO.	設問内容	評価				
		◎	○	△	×	—
1	環境基本計画の内容と実施状況	3	7			10
2	独自目標の内容と達成見込み	7	13			
3	独自目標の改善	2	18			
4-1	エコオフィスの推進（省エネ）	3	17			
4-2	エコオフィスの推進（エネルギーの使用状況）	1	19			
4-3	エコオフィスの推進（分別・用紙の使用量削減）	6	14			
5	グリーン購入の推進	1	19			
6	町民や事業者等との連携	1	19			
7	施設における環境配慮	1	19			
8	職場での情報共有	2	17			
9	指摘事項の改善		1			19
10	全般（その他取り組みの工夫）	4	16			
11	環境方針の認知	4	16			
12	地域環境への関心	1	19			
13	全般（各人の環境配慮の取り組み）		20			
合 計		37	234	0	0	29
達 成 率（○以上の項目／全15問×20部署） ※該当なし項目（—）を除く		100%				

3) 事務局

NO.	設問内容	評価				
		◎	○	△	×	—
1	基本方針の周知・理解		1			
2	環境に関する定期的研修（研修実施）		1			
3	環境に関する定期的研修（優良事例等の伝達）		1			
4	首長との協議		1			
5	目標達成状況の公開		1			
6	指摘事項の改善					1
7	全般（取り組み方法の工夫と課題）		1			
8	全般（協働の推進）	1				
9	システム全般（うちエコ運用の工夫と課題）	1				
10	システム全般（監査の工夫と課題）			1		
11	システム全般（監査の評価）					1
12	システム全般（監査報告書）		1			
合 計		2	7	1		2
達成率（○以上の項目／全 12 問） ※該当なし項目（—）を除く		90%				

—監査の様子—



推進本部監査



書面監査における全体協議

(3) エコ見回り

例年実施していた子どものエコ見回り隊および大人のエコ見回りは、新型コロナウイルス感染症の影響により、本年度は多くが中止となりました。しかしそのような中において、五十崎こども園や内子小学校・天神小学校では規模を縮小しつつ、工夫して実施され、エコ活動のひとつとして取り組みが浸透していることがうかがえます。

①五十崎こども園のエコ見回り

実施日：令和3年3月11日（木）

訪問先：内子町役場本庁

町民会館

五十崎自治センター

内 容：水回りを中心とした見回りと
結果報告・感想発表



水回りをチェック（五十崎自治センター）

②内子小学校2年生のエコ見回り

実施日：12月16日（水）

訪問先：内子町社会福祉協議会

町並・地域振興課

公益財団法人内子町国際交流協会

内子自治センター

内子町図書情報館

内子児童館

うちこ福祉館

環境NPO サン・ラブ

内 容：職場インタビューと電気・水・紙
ごみ分別の見回り



紙の分別をチェック（内子分庁）



1人ずつ質問をしながら聞き取り

③天神小学校2年生のエコ見回り

実施日：2月24日（水）

訪問先：内子町役場本庁

内 容：職場インタビューと電気・水・紙
ごみ分別の見回り

(4) 数値目標評価結果

うちエコの視点・エコアクション (A: 環境活動) ①ホップ④ステップ⑦ジャンプ
 ・エコマネジメント (M: 環境経営) ②ホップ⑤ステップ⑧ジャンプ
 ・エコガバナンス (G: 環境自治) ③ホップ⑥ステップ⑨ジャンプ

		目 標	達成 状況	評価
ホ ッ プ	A103	電気使用量を、H26 年度と比較して 1%以上削減します。	○	○
	A104	ガソリン使用量を、H26 年度と比較して 1%以上削減します。	○	
	A105	軽油使用量を、H26 年度と比較して 1%以上削減します。	○	
	A106	温室効果ガスの排出量を、H26 年度と比較して 1%以上削減します。	○	
	A107	公共事業における省エネルギーに関する環境配慮率を、100%にします。	○	
	A108	紙ごみの分別率を 100%にします。(リサイクル可能な紙ごみを可燃ごみに入れないようにします)	○	
	M109	環境にかかる集合研修を年 1 回、部署別研修を年 2 回以上、開催します。	○	○
	M114	ホップステージの目的・目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G104	環境に関連する情報を、広報および HP で年 50 回以上提供します。	○	○
ス テ ッ プ	A204	内子町環境基本計画にかかる事業の達成度を示す指数および数値目標の達成率を 70%とします。	×	△
	A205	内子町環境基本計画に関連した独自の数値目標を各部署で設定・実施し、その達成率を 90%とします。	×	
	M206	内子町環境マネジメント推進本部会議を年 2 回開催し、評価・見直しを行います。	○	○
	M207	ステップステージの目的・目標について、監査を年 1 回実施します。	○	
	G203	環境に関する施策・事業計画等について、町民との意見交換の場を年 20 回以上持ちます。	○	○
ジ ャ ン プ	A302	うちエコに賛同し実践する事業所等を 3 つ以上設け、公表します。	×	△
	A305	エコロジータウン内子のまちづくりを推進するため、環境団体等が主体となって勉強会を年 1 回開催します。	×	
	A307	えひめ AI-1 の利用促進を図るため、環境団体の主催で農業分野における実践活動を他団体と連携して 1 つ行います。	○	
	A308	環境団体の主催で、環境に関する実践活動を、他団体と連携して 15 回以上開催します。	○	
	M303	事業者や団体等の情報交換の場を、年 1 回設けます。	×	×
	M304	ジャンプステージの目的・目標について、監査を年 1 回実施します。	×	
	G302	町民や事業者、団体、自治会等の環境への取り組みについて、年 1 回は広報で紹介するとともに、年次報告書に掲載し、公表します。	○	○
	G303	住民、団体等による主体的な活動を 5 種類以上サポートします。	○	

達成状況：○＝達成、×＝未達成 評 価：○＝良好、△＝改善要望、×＝勧告

[所見]

9つの評価項目について「○」（良好）＝6つ、「△」（改善要望）＝2つ、「×」（勧告）＝1という結果になりました。令和元年度と比べて「○」が1つ減り、「×」が1つ増えています。

「○」評価のうち、ホップステージのエコアクションは、すべての項目の達成状況が「○」となりました。特に電気使用量の目標達成は平成27年度以来です。コロナによる休業・休館や事業中止などの影響が多分にあることとは思われますが、全項目の目標達成を素直に評価したいと思います。

「△」評価のうち、ステップステージ A204・A205 の環境基本計画にかかる項目については、いずれも達成状況は「×」となっています。しかしながらコロナ禍という特殊な状況下において、イベントをはじめ事業そのものが中止となるなど不可抗力の部分も多く、それらについては評価の対象から外しても良いのではないかと意見もありました。また A204 については、「すべて実施できた」は 32.2%ながら、「一部実施できた」を合わせると約 8 割の達成率となっています。A205 についても 87.1%とほぼ目標に近い達成率であり、難しい状況の中で頑張ったといえるのではないかと考えます。コロナ禍でなければ恐らく実施できていたであろうことから、次年度以降へのエールを込めて「△」の評価としました。

2つめの「△」評価は、ジャンプステージのエコアクションについての項目です。このうち A302 は、達成状況「×」となっていますが、コロナ禍において事業所側の厳しい事情もあり、協力を求めることは困難だったと推察されます。一方で、この取り組みは以前から進めてきたものであり、エコロジータウンを目指して町全体が共に頑張っていこうという意識を共有することが重要であると考えます。コロナの状況が改善されたら、あらためて力を入れて取り組んでいってほしいと思います。A305 も達成状況「×」ですが、事業そのものが開催できず、やむを得ない結果でした。その他の 2 項目は達成状況「○」であり、総合的な評価は「△」としました。

「×」評価とした M303・M304 についてもコロナの影響は否めないところではありますが、いずれも達成状況「×」であることから判断しました。

昨年度に続き、コロナ禍という前例のない状況下での取り組みとなり、その影響を大きく受けた結果となりました。しかし、だからといって取り組みを中断することはできません。コロナ禍の終息がいつになるのかは未だ見えませんが、今後はそれを踏まえた上で、できる形で実行していかなければならないと考えます。「エコロジータウン内子」の取り組みが少しずつでも前進していくことを期待します。

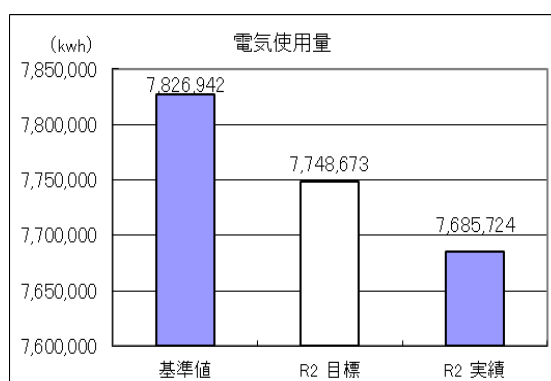
5. 内子町エコオフィスプラン

(1) 令和2年度の取り組み状況

内子町エコオフィスプランは、「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく地球温暖化対策実行計画（事務事業編）として策定しており、令和2年度は第4次計画期間（平成28年度～令和2年度）の最終年度となります。

令和2年度の取り組み状況は、次のとおりです。

(2) 取組結果



項目: 電気使用量

目標→26年度実績比1%減

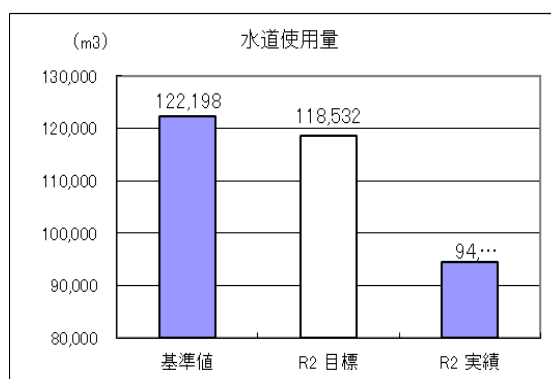
結果→1.8%減 (○)

考察:

電気使用量の合計は7,685,724kwhで、1%の削減目標に対し、1.8%の減となり、目標を達成しました。

本庁・分庁・支所は、昨年度・一昨年度に続き基準年を大きく下回りました。これらは基準年度以降に行われた照明のLED化や空調設備の更新などによるものと考えられます。その他の施設では、新型コロナ対策として換気が求められたことにより、保育園・幼稚園・学校等での夏季の空調利用による電気使用量の増加がみられました。一方で、施設の休館・休業や事業・会議等の中止・自粛により、その他の施設全体での電気使用量は減少しました。

状況に合わせて、こまめな消灯や設定変更など、できる範囲で日頃から節電に努めましょう。また設備等の新設・更新の際は、省エネ機器の積極的な導入をお願いします。



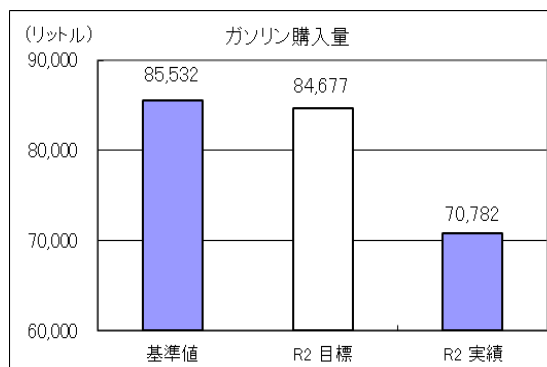
項目: 水道使用量

目標→28年度実績比3%減(2年度までに)

結果→22.7%減 (○)

水道使用量の合計は94,469m3で、3%の削減目標に対し、22.7%の減となり、目標を達成しました。4年連続の達成となります。

引き続き、限りある水資源の有効利用にご協力をお願いします。



項目: ガソリン購入量

目標→26年度実績比1%減

結果→17.2%減 (○)

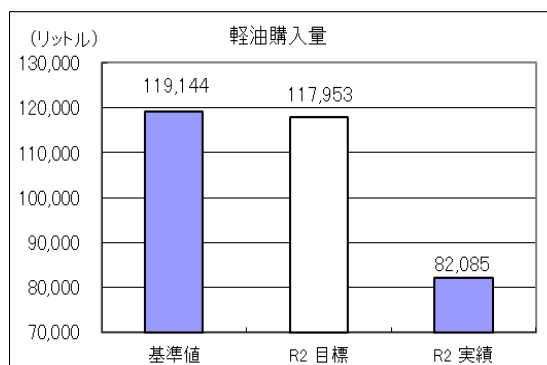
考察:

ガソリン購入量は70,782リットルで、1%の削減目標に対して17.2%の減となり、目標を達成しました。

ガソリンは、主に公用車の燃料に使用されています。

減少の理由としては、新型コロナの影響により、年間を通じて出張の機会が減ったことが主な理由と考えられます。

引き続き、近距離の移動はできるだけ徒歩や自転車利用とし、車利用時はエコドライブに努め、また公用車の購入時は低燃費車を導入するなど、削減の取り組みをお願いします。



項目: 軽油購入量

目標→26年度実績比1%減

結果→31.1%減 (○)

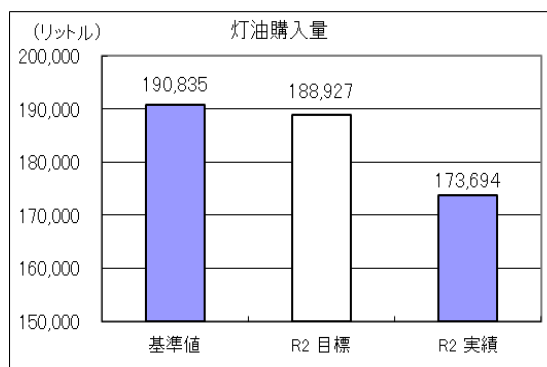
考察:

軽油購入量は82,085リットルで、1%の削減目標に対し、31.1%の減となり、大幅に目標を達成しました。

軽油は、主にバスなどの公用車やスキー場の降雪機の燃料に使用されています。

基準年度以降、町営バスからデマンドバスへの移行が進んだことなどにより、軽油使用の車両が減少したことが主な理由と考えられます。

昨年度からの増加は、スキー場の営業によるものが大きくなっています。



項目: 灯油購入量

目標→26年度実績比1%減

結果→9.0%減 (○)

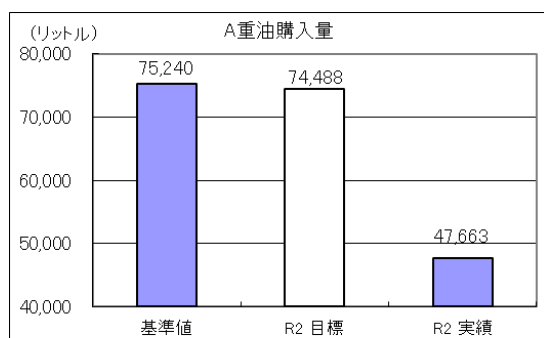
考察:

灯油購入量は173,694リットルで、1%の削減目標に対し、9.0%の減となり、大幅に目標を達成しました。

灯油は、一部施設の冷暖房や、クリーンセンターの助燃材などに使用されています。

昨年度は、クリーンセンターの他、スキー場や藤華苑での使用が減少し、全体の使用量削減につながりました。

灯油利用の冷暖房設備を更新する際には、バイオマス機器の導入を検討するなど、引き続き使用量の削減にご協力をお願いします。



項目:A重油購入量

目標→26年度実績比1%減

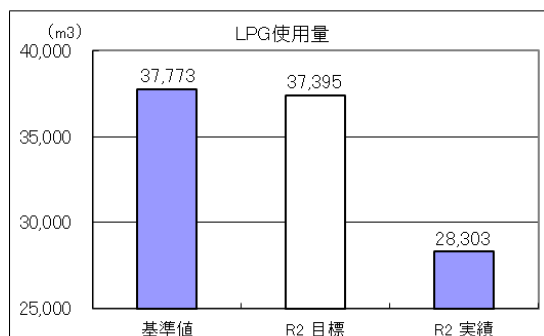
結果→36.7%減 (○)

考察:

A重油購入量は47,663リットルで、1%の削減目標に対し、36.7%の減となり、大幅に目標を達成しました。

A重油は、主に給食センターや指定管理施設の給湯器、空調機などの燃料に使用されています。

大幅に削減した要因は、スキー場での使用が減少したためと考えられます。



項目:LPG購入量

目標→26年度実績比1%減

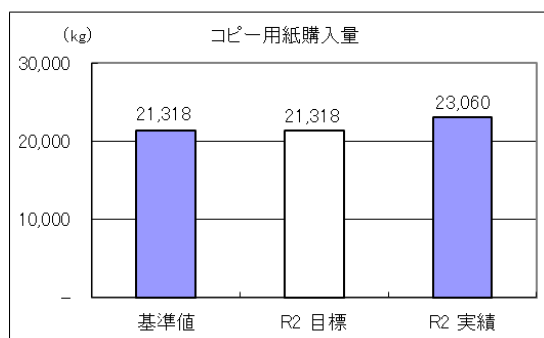
結果→25.1%減 (○)

考察:

LPG購入量は28,303m3で、1%の削減目標に対し、25.1%の減となり、大幅に目標を達成しました。

LPGは、主に調理や給湯に使用されています。

昨年度は、ほぼすべての施設において使用量が減少したことが目標達成につながりました。



項目:コピー用紙購入量

目標→26年度実績比0%(現状維持)

結果→8.2%増 (×)

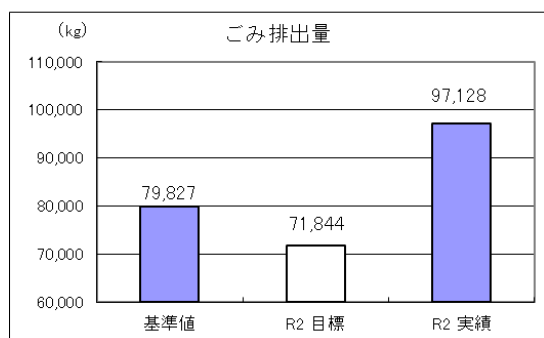
考察:

コピー用紙購入量は23,060kgで、現状維持の目標に対し、8.2%の増となり、目標を達成することができませんでした。5年連続の増加となっています。

国・県から電子データで送付される文書が増えていることや事業の増大などにより、コピー用紙の購入量は年々大きく増加しています。

6月に導入された文書管理システムを活用いただき、コピー用紙の削減にご協力ください。

印刷する際は、用紙の裏面利用やリサイクルの徹底など、日常業務におけるこまめな節減をお願いします。



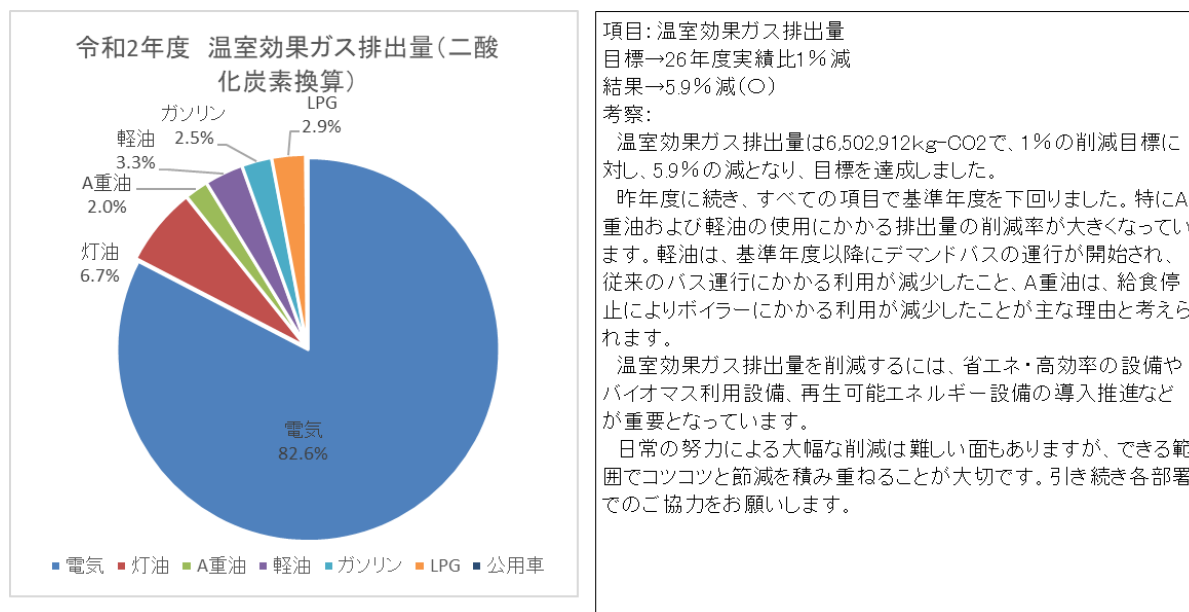
項目:ごみ排出量

目標:28年度実績比10%減(2年度までに)

結果→21.7%増 (×)

ごみ排出量は97,128kgで、7%の削減目標に対し、21.7%の増となり、目標を達成することができませんでした。

今後もリサイクル可能な紙ごみの分別、私的なごみの持ち帰りの徹底など、取り組みの継続をお願いします。



令和2年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,685,724 kwh	0.699	1	5,372,321 kg-CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	173,694 リットル	2.49	1	432,498 kg-CO ₂
A重油購入量	二酸化炭素	47,663 リットル	2.71	1	129,167 kg-CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	82,085 リットル	2.58	1	211,778 kg-CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	70,782 リットル	2.32	1	164,215 kg-CO ₂
LPG使用量	二酸化炭素	28,303 m ³	6.55	1	185,385 kg-CO ₂
公用車走行距離	メタン	990,104 km	—	21	7,548 kg-CO ₂
	一酸化二窒素		—	310	
					6,502,912 kg-CO ₂

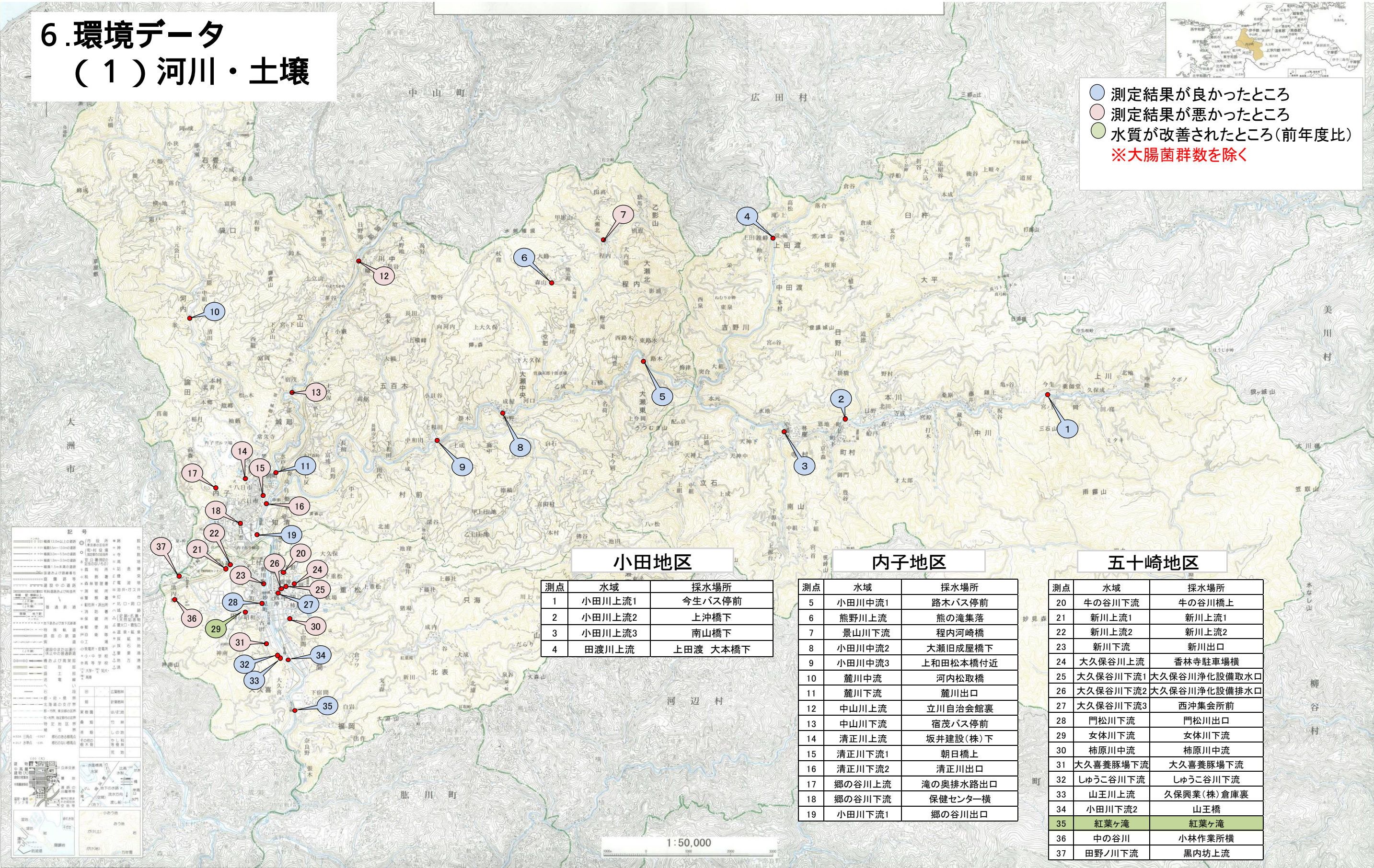
平成26年度 温室効果ガス排出量算定

項目	温室効果ガス	使用量等	排出係数	地球温暖化係数	二酸化炭素換算排出量
電気使用量	二酸化炭素	7,826,942 kwh	0.699	1	5,471,032 kg-CO ₂
灯油購入量	二酸化炭素	190,835 リットル	2.49	1	475,179 kg-CO ₂
A重油購入量	二酸化炭素	75,240 リットル	2.71	1	203,900 kg-CO ₂
軽油購入量	二酸化炭素	119,144 リットル	2.58	1	307,392 kg-CO ₂
ガソリン購入量	二酸化炭素	85,532 リットル	2.32	1	198,434 kg-CO ₂
LPG使用量	二酸化炭素	37,773 m ³	6.55	1	247,413 kg-CO ₂
公用車走行距離	メタン	1,213,692 km	—	21	9,123 kg-CO ₂
	一酸化二窒素		—	310	
					6,912,473 kg-CO ₂

6.環境データ
(1)河川・土壌



- 測定結果が良かったところ
- 測定結果が悪かったところ
- 水質が改善されたところ(前年度比)
※大腸菌群数を除く



小田地区

測点	水域	採水場所
1	小田川上流1	今生バス停前
2	小田川上流2	上沖橋下
3	小田川上流3	南山橋下
4	田渡川上流	上田渡 大本橋下

内子地区

測点	水域	採水場所
5	小田川中流1	路木バス停前
6	熊野川上流	熊の滝集落
7	景山川下流	程内河崎橋
8	小田川中流2	大瀬旧成屋橋下
9	小田川中流3	上和田松本橋付近
10	麓川中流	河内松取橋
11	麓川下流	麓川出口
12	中山川上流	立川自治会館裏
13	中山川下流	宿茂バス停前
14	清正川上流	坂井建設(株)下
15	清正川下流1	朝日橋上
16	清正川下流2	清正川出口
17	郷の谷川上流	滝の奥排水路出口
18	郷の谷川下流	保健センター横
19	小田川下流1	郷の谷川出口

五十崎地区

測点	水域	採水場所
20	牛の谷川下流	牛の谷川橋上
21	新川上流1	新川上流1
22	新川上流2	新川上流2
23	新川下流	新川出口
24	大久保谷川上流	香林寺駐車場横
25	大久保谷川下流1	大久保谷川浄化設備取水口
26	大久保谷川下流2	大久保谷川浄化設備排水口
27	大久保谷川下流3	西沖集会所前
28	門松川下流	門松川出口
29	女体川下流	女体川下流
30	柿原川中流	柿原川中流
31	大久喜養豚場下流	大久喜養豚場下流
32	しゅうこ谷川下流	しゅうこ谷川下流
33	山王川上流	久保興業(株)倉庫裏
34	小田川下流2	山王橋
35	紅葉ヶ滝	紅葉ヶ滝
36	中の谷川	小林作業所横
37	田野ノ川下流	黒内坊上流

公共用水域水質測定分析結果一覧表 令和2年度

地 区		小 田 地 区(4箇所)				内 子 地 区 (15箇所)														
測 点		No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13	No.14	No.15	No.16	No.17	No.18	No.19
水 域		小田川 上流1	小田川 上流2	小田川 上流3	田渡川 上流	小田川 中流1	熊ノ滝川 上流	景山川 下流	小田川 中流2	小田川 中流3	麓川 中流	麓川 下流	中山川 上流	中山川 下流	清正川 上流	清正川 下流1	清正川 下流2	郷の谷 川上流	郷の谷 川下流	小田川 下流1
採 水 場 所		今生バス停前	上沖橋下 大平川との合流 地点	南山橋下	上田渡 大本橋下	路木 バス停前	熊ノ滝 集落	程内 河崎橋	大瀬 旧成屋橋下	上和田 松本橋付近	河内 松取橋	麓川 出口	立川 自治会館裏	宿茂 バス停前	坂井建設 (株)下	朝日橋上	清正川 出口	滝の奥 排水路 出口	保健 センター横	郷の谷川 出口
採 水 月 日		9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	9月16日	8月25日	8月25日	8月25日	8月25日	8月25日	8月25日	8月25日	8月25日
採 水 時 刻		14:20	13:50	13:10	14:55	12:05	11:32	10:49	10:15	09:57	09:05	08:45	13:30	13:00	14:50	14:20	14:00	11:47	11:20	11:00
測定項目	基準値																			
天候		曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	曇り	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温(℃)		26.2	28.8	30.3	25.6	27.1	26.1	27.5	27.4	24.9	24.4	24.0	35.2	36.0	35.0	38.6	38.4	29.7	37.1	37.4
湿度(%)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水温(℃)		20	21	21	22	21	22	20	22	22	22	23	28	28	28	31	33	28	28	30
流量(m ³ /min)		42	61	67	38	220	0.7	0.8	150	180	20	24	40	48	0.1	0.2	0.6	1	2.4	280
pH	6.5～8.5	7.9	8.1	8.2	8.0	8.1	7.6	7.6	8.0	8.1	8.1	8.1	8.7	8.7	7.7	10.7	10.7	8.0	8.0	8.3
(水温)		(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(24℃)	(24℃)	(25℃)	(24℃)	(24℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)	(25℃)
DO(mg/L)	7.5以上	8.6	9.0	8.9	9.0	8.9	8.4	8.4	9.1	9.1	9.2	8.7	9.4	9.2	3.6	9.6	9.6	7.6	8.3	9.1
BOD(mg/L)	2.0以下	1.0	1.6	<0.5	0.8	0.7	1.2	2.9	1.2	0.7	1.1	1.4	1.4	1.0	1.4	1.2	1.5	1.8	1.3	1.1
COD(mg/L)	3.0以下	1.6	1.2	1.0	1.3	1.2	1.3	3.1	1.4	1.5	1.1	1.3	1.6	1.7	6.5	7.1	8.6	6.3	3.0	2.2
SS(mg/L)	25以下	2	1	2	<1	<1	1	6	<1	<1	<1	1	1	1	3	2	2	3	2	1
大腸菌群数 (MPN/100mL)	1,000以下	4,900	4,900	11,000	17,000	3,300	79	22,000	7,900	13,000	4,900	2,200	1,300	2,200	240	5	2	1,300	35,000	1,700
n-ヘキサン抽出 物質(mg/L)	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない
全窒素(mg/L)		0.51	0.76	0.52	0.63	0.61	0.54	1.7	0.61	0.59	0.54	0.48	0.81	0.67	0.51	0.48	0.62	0.63	0.54	0.39
全リン(mg/L)		0.016	0.019	0.021	0.015	0.017	0.009	0.22	0.017	0.019	0.007	0.013	0.024	0.02	0.085	0.13	0.14	0.081	0.054	0.014
カドミウム(mg/L)	0.003以下	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満	0.0003 未満
シアン(mg/L)	未検出で あること	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない	検出さ れない
鉛(mg/L)	0.01以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
六価クロム(mg/L)	0.05以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
砒素(mg/L)	0.01以下	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満	0.005 未満
総水銀(mg/L)	0.0005以下	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満	0.0005 未満
溶解性鉄(mg/L)							0.02	0.11												
銅(mg/L)							<0.1	<0.1												
【参考】 類型 ※		AA	A	AA	AA	AA	A	B	A	AA	A	A	×	×	D	×	×	A	A	A

- …

新規採水場所
- …

今年度検査で基準値オーバーとなったもの
- …

昨年度と今年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
- …

昨年度検査で基準値オーバーであったが、今年度検査で改善されたもの

※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。
大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況・流量・水温・水の流れる状況(水がせき止められると大腸菌群数の増加要因となることも)や田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

公共用水域水質測定分析結果一覧表 令和2年度

地 区		五 十 崎 地 区 （ 18箇所 ）																	
測 点		No.20	No.21	No.22	No.23	No.24	No.25	No.26	No.27	No.28	No.29	No.30	No.31	No.32	No.33	No.34	No.35	No.36	No.37
水 域		牛の谷川下流	新川上流1	新川上流2	新川下流	大久保谷川上流	大久保谷川下流1	大久保谷川下流2	大久保谷川下流3	門松川下流	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうこ谷川下流	山王川上流	小田川下流2	紅葉ヶ滝	中の谷川	田野々川下流
採 水 場 所		牛の谷川橋上	新川上流①	新川上流②	新川出口	香林寺駐車場横	大久保谷川浄化設備取水口	大久保谷川浄化設備排水口	西沖集会所前	門松川出口	女体川下流	柿原川中流	大久喜養豚場下流	しゅうこ谷川下流	久保工業㈱倉庫裏	山王橋	紅葉ヶ滝	小林作業所横	黒内坊上流
採 水 月 日		8月25日	8月25日	8月25日	8月25日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日	8月12日
採 水 時 刻		09:50	09:30	09:15	08:45	09:56	09:35	09:26	09:02	10:23	11:05	11:29	13:26	12:38	12:59	12:10	15:00	15:34	15:53
測定項目	基準値																		
天候		晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ	晴れ
気温(℃)		37.3	29.4	29.9	31.8	32.4	32.3	33.4	35.5	34.6	35.9	31.9	27.9	28.8	28.8	37.7	29.1	31.4	35.9
湿度(%)		—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
水温(℃)		30	24	26	29	29	29	28	29	29	30	31	24	21	24	30	23	30	33
流量(m ³ /min)		0.4	0.7	0.4	0.5	0	0.2	4	1.7	4.4	0.1	0.9	0.2	0.2	1.2	220	1.7	1.8	0.5
pH	6.5～8.5	8.4	8.0	7.4	7.9	7.9	7.4	7.6	7.8	7.7	8.3	8.2	7.7	7.9	7.9	7.9	8.1	8.2	8.3
(水温)		(25℃)	(24℃)	(25℃)	(25℃)	(26℃)	(26℃)	(26℃)	(26℃)	(27℃)	(27℃)	(27℃)	(27℃)	(27℃)	(27℃)	(27℃)	(26℃)	(26℃)	(26℃)
DO(mg/L)	7.5以上	10	7.9	5.3	7.7	7.2	7.3	5.9	7.6	7.9	8.1	9.8	8.2	9.1	8.6	9.1	8.7	6.4	8.8
BOD(mg/L)	2.0以下	1.2	1.1	12	1.3	1.3	2.2	2.8	1.1	1.1	1.4	0.9	<0.5	<0.5	0.5	0.6	<0.5	2.3	0.8
COD(mg/L)	3.0以下	3.2	3.5	15	4.5	2.6	3.7	5.8	2.3	2.9	2.2	3.2	2.3	1.0	1.1	1.6	0.9	8.4	3.2
SS(mg/L)	25以下	3	5	13	<1	16	2	1	2	3	6	<1	36	<1	1	2	5	3	3
大腸菌群数(MPN/100mL)	1,000以下	4,900	11,000	160,000	13,000	13,000	7,000	22,000	7,900	7,900	7,900	7,900	2,200	1,100	17	1,400	700	7,000	4,900
n-ヘキサン抽出物質(mg/L)	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない
全窒素(mg/L)		0.25	1.0	4.9	1.8	0.54	1.8	3.3	0.51	0.63	1.4	0.44	0.91	0.22	0.36	0.48	0.42	2.0	0.57
全リン(mg/L)		0.1	0.1	0.61	0.4	0.04	0.31	0.64	0.046	0.11	0.096	0.06	0.064	0.006	0.018	0.022	0.021	1.3	0.065
カドミウム(mg/L)	0.003以下	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0006	0.0010	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満	0.0003未満
シアン(mg/L)	未検出であること	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない	検出されない
鉛(mg/L)	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
六価クロム(mg/L)	0.05以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
砒素(mg/L)	0.01以下	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満	0.005未満
総水銀(mg/L)	0.0005以下	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満	0.0005未満
溶解性鉄(mg/L)														<0.02	<0.02				
銅(mg/L)														<0.1	<0.1				
【参考】 類型 ※		A	A	×	A	B	B	B	A	A	A	AA	C	AA	AA	AA	AA	B	AA

- …新規採水場所
- …今年度検査で基準値オーバーとなったもの
- …昨年度と今年度の2年連続で基準値オーバーとなったもの
- …昨年度検査で基準値オーバーであったが、今年度検査で改善されたもの

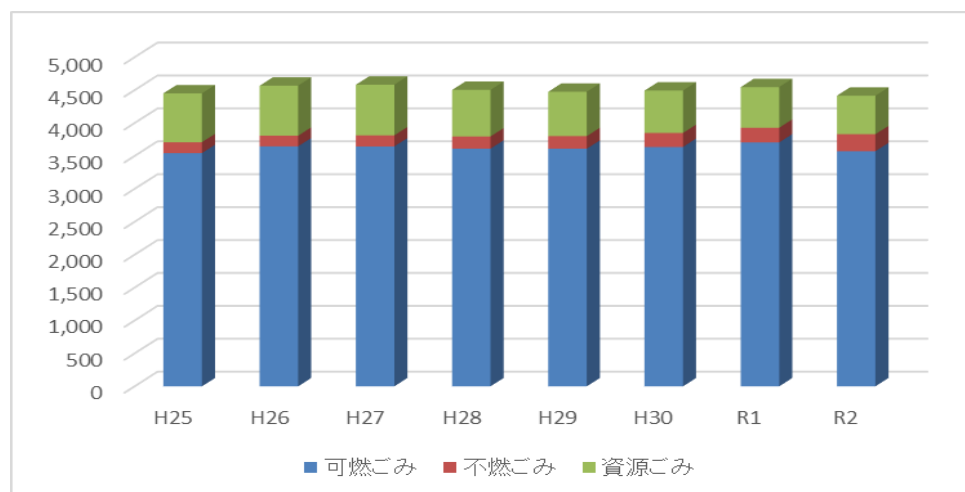
※類型は、参考として、大腸菌群数を除く「生活環境の保全に関する環境基準」に基づき評価しています。
大腸菌群数は、検査日前の降雨の状況・流量・水温・水の流れる状況(水がせき止められると大腸菌群数の増加要因となることも)や田畑からの土壌の流入による土壌由来によるものなど様々な要因で大きく増減することが知られていることから対象としていません。

(2) ごみ

①ごみ排出量 事業系ごみを含む

(単位：t)

収集区分	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
可燃ごみ	3,543	3,647	3,645	3,612	3,611	3,637	3,706	3,573
不燃ごみ	166	162	168	185	191	213	223	258
資源ごみ	743	760	770	707	674	644	618	585
合計	4,452	4,568	4,583	4,504	4,476	4,494	4,547	4,416



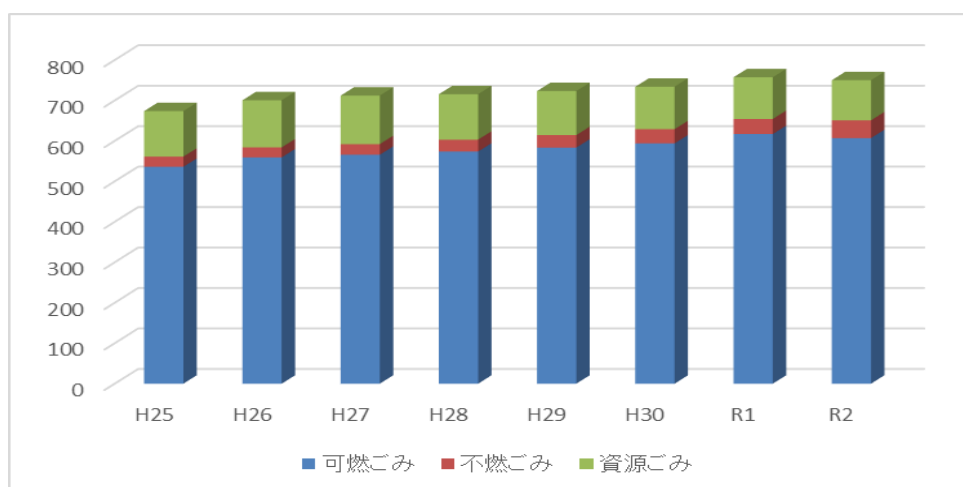
②ごみ・資源排出量 (一人一日当たりのごみ・資源排出量)

(単位：g)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
可燃ごみ	536	559	566	574	584	594	617	607
不燃ごみ	25	25	26	29	31	35	37	44
資源ごみ	112	116	120	112	109	105	103	99
合計	674	700	712	715	723	734	757	751

一人一日当たりのごみの排出量＝総ごみ量÷各年の10/1日現在の人口÷各年の日数

※四捨五入の関係で、数値に若干のずれがあります。ご了承ください。

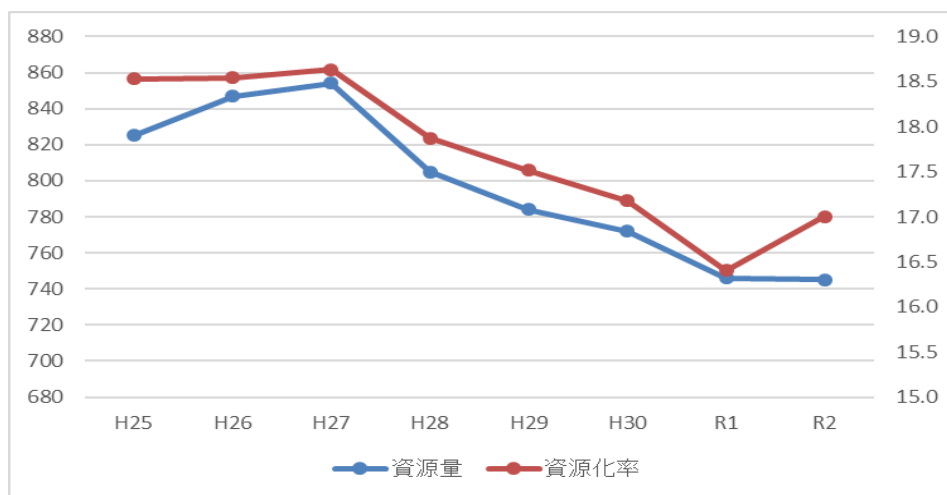


③ごみ資源化率 事業系ごみを含む

(単位：年度・t)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
資源量	825	847	854	805	784	772	746	745
資源化率	18.5	18.5	18.6	17.9	17.5	17.2	16.4	17

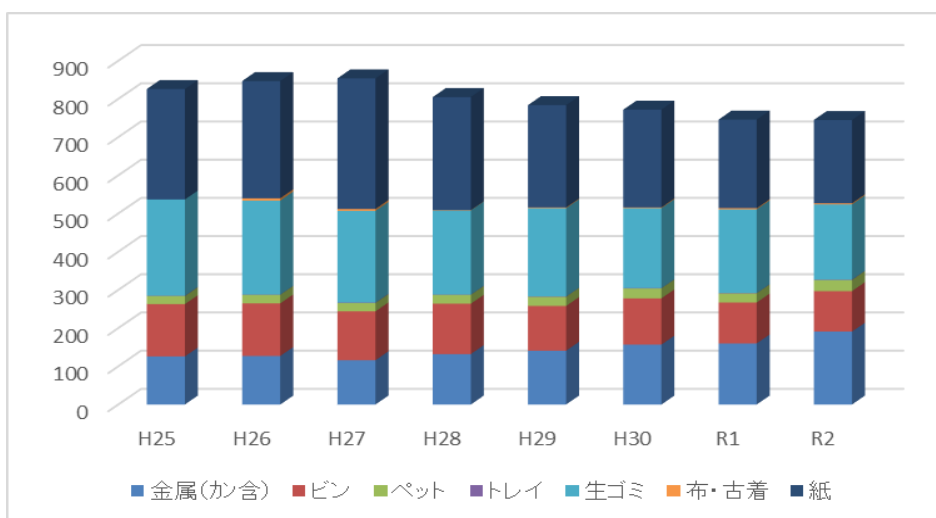
資源化率＝資源ごみ量＋各施設資源化量÷総ごみ量



④ごみ資源化量内訳

(単位：年度：t)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
金属 (カン含)	126	127	116	132	141	157	160	191
ビン	137	138	128	132	117	121	107	106
ペット	21	22	22	23	24	26	24	29
トレイ	1	1	1	1	1	1	1	1
生ゴミ	252	246	240	220	231	209	219	197
布・古着	0	6	5	1	2	2	3	3
紙	289	307	342	296	268	256	232	218
合計	826	847	854	805	784	772	746	745



⑤焼却処理量 事業系ごみ含む

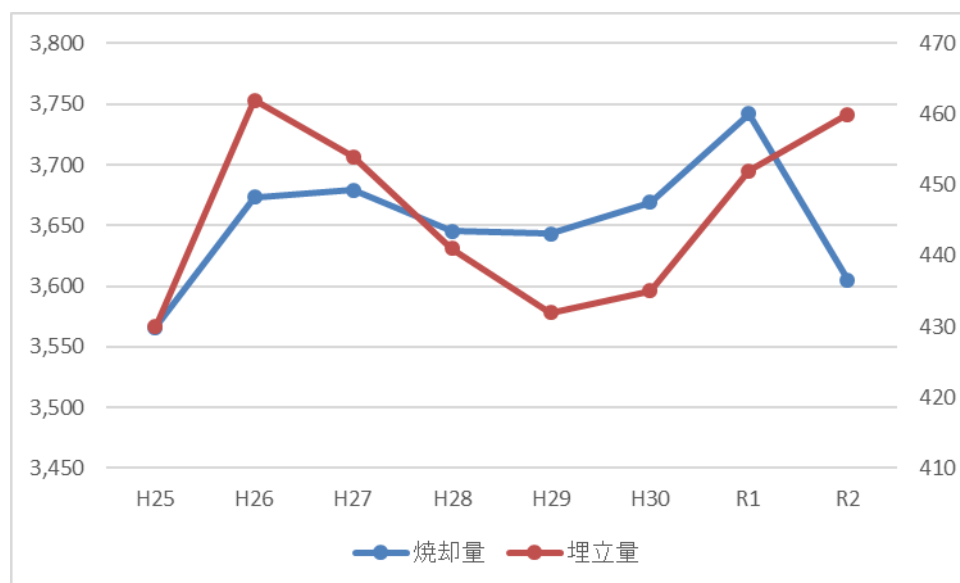
(単位：t)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
焼却量	3,566	3,673	3,679	3,645	3,643	3,669	3,742	3,605

⑥埋立処理量 事業系ごみ含む

(単位：年度：t)

	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2
埋立量	430	462	454	441	432	435	452	460



(3) 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について(令和3年3月末現在)

・移行認定分： 固定価格買取制度が開始されるH24.6月末までに設置した設備のうち、固定価格買取制度に移行したもの。

・新規認定分： 固定価格買取制度が始まったH24.7月以降に設置されたもの。

	太陽光発電設備											
	移行認定分(実績)					新規認定分(実績)						
	10kW未満	10kW以上				10kW未満	10kW以上					
		うち50kW未満	うち50kW以上 500kW未満	うち500kW以上 1,000kW未満			うち50kW未満	うち50kW以上 500kW未満	うち500kW以上 1,000kW未満	うち1,000kW以上 2,000kW未満	うち2,000kW以上	
内子町	598kW (140件)	0	0	0	0	1,041kW (193件)	3,490kW (94件)	2,215kW (90件)	1,275kW (4件)	0	0	0
松山市	28,874kW (7,201件)	2,065kW (105件)	1,608kW (99件)	458kW (6件)	0	46,883kW (9,455件)	122,903kW (2,477件)	50,684kW (2,403件)	9,164kW (40件)	9,823kW (14件)	26,392kW (17件)	26,840kW (3件)
今治市	8,871kW (2,094件)	303kW (13件)	193kW (11件)	110kW (2件)	0	15,440kW (2,954件)	111,293kW (1,733件)	50,865kW (1,650件)	9,237kW (42件)	13,005kW (20件)	33,187kW (20件)	4,999kW (1件)
宇和島市	2,898kW (682件)	98kW (2件)	11kW (1件)	87kW (1件)	0	3,943kW (758件)	21,792kW (451件)	11,637kW (427件)	6,130kW (19件)	2,000kW (3件)	2,025kW (2件)	0
八幡浜市	946kW (231件)	139kW (7件)	139kW (7件)	0	0	1,512kW (289件)	2,528kW (109件)	2,068kW (106件)	460kW (3件)	0	0	0
新居浜市	6,522kW (1,587件)	120kW (8件)	120kW (8件)	0	0	11,322kW (2,252件)	49,214kW (941件)	23,795kW (846件)	12,353kW (47件)	9,067kW (14件)	4,000kW (4件)	0
西条市	7,237kW (1,725件)	260kW (12件)	260kW (12件)	0	0	11,206kW (2,125件)	146,644kW (1,261件)	33,451kW (1,163件)	16,162kW (64件)	10,018kW (15件)	23,012kW (16件)	64,000kW (3件)
大洲市	1,663kW (391件)	208kW (9件)	208kW (9件)	0	0	2,247kW (431件)	11,818kW (172件)	3,997kW (154件)	3,071kW (12件)	2,500kW (4件)	2,250kW (2件)	0
伊予市	2,516kW (604件)	786kW (16件)	236kW (15件)	0	550kW (1件)	4,200kW (823件)	10,575kW (247件)	5,016kW (234件)	2,013kW (8件)	2,546kW (4件)	1,000kW (1件)	0
四国中央市	4,189kW (994件)	215kW (12件)	165kW (11件)	50kW (1件)	0	7,235kW (1,412件)	53,335kW (853件)	22,407kW (766件)	15,459kW (71件)	4,749kW (8件)	10,721kW (8件)	0
西予市	1,843kW (441件)	22kW (2件)	22kW (2件)	0	0	2,613kW (503件)	22,723kW (365件)	11,044kW (336件)	4,899kW (21件)	3,692kW (5件)	3,089kW (3件)	0
東温市	3,363kW (819件)	440kW (9件)	140kW (8件)	300kW (1件)	0	4,279kW (840件)	19,901kW (325件)	7,761kW (310件)	1,855kW (7件)	1,266kW (2件)	9,019kW (6件)	0
上島町	109kW (23件)	0	0	0	0	645kW (132件)	3,391kW (91件)	2,657kW (88件)	735kW (3件)	0	0	0
久万高原町	147kW (38件)	0	0	0	0	221kW (38件)	4,115kW (38件)	1,167kW (34件)	450kW (2件)	500kW (1件)	1,998kW (1件)	0
松前町	2,064kW (510件)	160kW (4件)	60kW (2件)	100kW (2件)	0	4,116kW (800件)	12,590kW (206件)	3,869kW (188件)	1,842kW (10件)	3,879kW (5件)	3,000kW (3件)	0
砥部町	1,350kW (330件)	30kW (1件)	30kW (1件)	0	0	1,793kW (350件)	8,204kW (103件)	2,333kW (96件)	781kW (3件)	850kW (1件)	4,420kW (3件)	0
伊方町	133kW (32件)	20kW (1件)	20kW (1件)	0	0	241kW (49件)	3,332kW (46件)	1,192kW (41件)	1,341kW (4件)	800kW (1件)	0	0
松野町	182kW (40件)	0	0	0	0	248kW (44件)	3,924kW (52件)	1,772kW (49件)	0	2,152kW (3件)	0	0
鬼北町	650kW (150件)	0	0	0	0	859kW (165件)	8,473kW (138件)	3,765kW (127件)	2,318kW (9件)	500kW (1件)	1,890kW (1件)	0
愛南町	1,212kW (274件)	41kW (3件)	41kW (3件)	0	0	1,130kW (219件)	23,054kW (310件)	10,634kW (296件)	900kW (4件)	820kW (1件)	10,700kW (9件)	0
愛媛県市町村不明	574kW (150件)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

(3) 再生可能エネルギー

再生可能エネルギー発電設備の導入状況等について(令和3年3月末現在)

	バイオマス発電設備 (バイオマス比率よりバイオマス以外による発電分を除く)					
	メタン発酵ガス	未利用木質		一般木質・ 農作物残さ	建設廃材	一般廃棄物・ 木質以外
		2,000kW 未満	2,000kW 以上			
内子町	0	1,115kW (1件)	0	0	0	0
松山市	710kW (2件)	0	0	12,500kW (1件)	0	4,166kW (1件)
今治市	0	0	0	0	0	2,054kW (1件)
宇和島市	0	0	0	0	0	1,261kW (1件)
八幡浜市	0	0	0	0	0	0
新居浜市	500kW (1件)	0	0	0	0	0
西条市	0	0	0	0	0	0
大洲市	94kW (1件)	0	0	0	0	0
伊予市	0	0	0	0	0	0
四国中央市	0	0	0	0	0	62,920kW(1件)
西予市	0	0	0	0	0	0
東温市	0	0	0	0	0	0
上島町	0	0	0	0	0	0
久万高原町	0	0	0	0	0	0
松前町	0	0	0	0	0	0
砥部町	0	0	0	0	0	0
伊方町	0	0	0	0	0	0
松野町	0	0	0	0	0	0
鬼北町	0	0	0	0	0	0
愛南町	0	0	0	0	0	0

内子町環境報告書 2020

編集・発行 内子町環境政策室
発行年月 令和4年3月